

IV リスク判定・分析

1. リスクの判定条件

【運動器の機能低下】下記の設問で3問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	選択肢
問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2(3)	15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

【転倒リスク】下記の設問で、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	選択肢
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

【閉じこもり傾向】下記の設問で、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	選択肢
問2(6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

【口腔機能の低下】下記の設問で2問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	選択肢
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ
問3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい 2. いいえ
問3(4)	口の渇きが気になりますか	1. はい 2. いいえ

【低栄養の傾向】下記の設問で、BMIが18.5以下となり、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	選択肢
問3(1)	身長・体重	身長・体重から算出されるBMI（体重(kg) ÷ {身長(m) × 身長(m)}）が18.5以下の場合、低栄養が疑われる
問3(7)	6か月間で2～3Kg以上の体重減少がありましたか	1. はい 2. いいえ

【IADL】下記の設問で、5点満点中、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価します。

設問番号	設問内容	選択肢	配点
問4(4)	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない	1点 1点 0点
問4(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない	1点 1点 0点
問4(6)	自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない	1点 1点 0点
問4(7)	自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない	1点 1点 0点
問4(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない	1点 1点 0点

【うつ傾向】下記の設問で1問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	選択肢
問7(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
問7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

【知的能動性】下記の設問で、4点満点中、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として評価します。

設問番号	設問内容	選択肢	配点
問4(9)	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
問4(10)	新聞を読んでいますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
問4(11)	本や雑誌を読んでいますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
問4(12)	健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点

【他者との関わり】下記の設問で、4点満点中、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として評価します。

設問番号	設問内容	選択肢	配点
問4(13)	友人の家を訪ねていますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
問4(14)	家族や友人の相談にのっていますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
問4(15)	病人を見舞うことができますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
問4(16)	若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点

【認知機能の低下】下記の設問で、3点満点中、3点を「高い」、2点を「やや低い」、1点以下を「低い」として評価します。

設問番号	設問内容	選択肢	配点
問4(1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
問4(2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
問4(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点

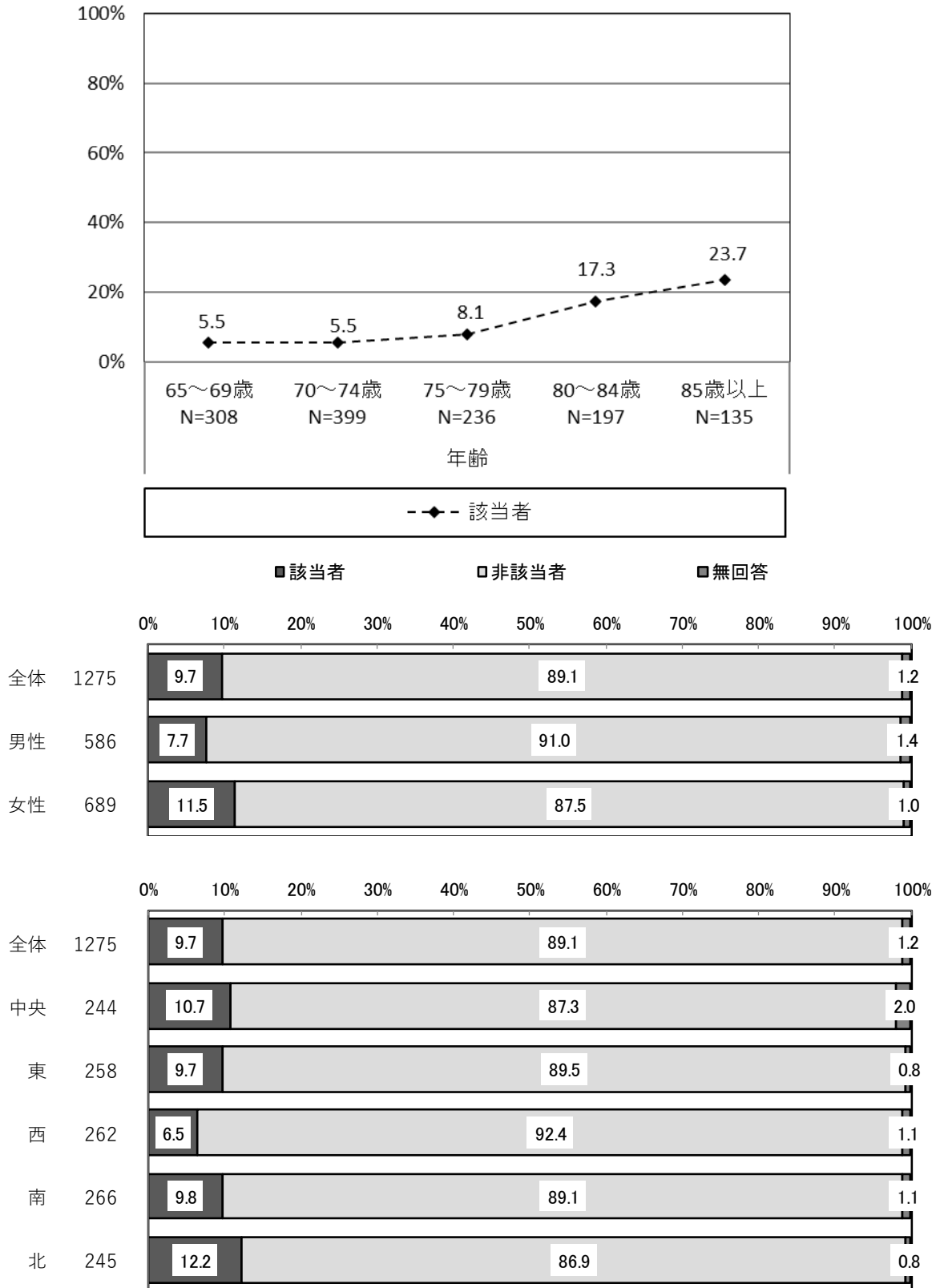
2. リスク判定分析

(1) 運動器の機能低下（一般高齢者）

年齢で見ると、年齢が上がるにつれて「該当者」の割合が増加する。

性別で見ると、男性より女性で「該当者」の割合がやや高い。

圏域別で見ると、北圏域では他の圏域と比べて「該当者」の割合がやや高い。

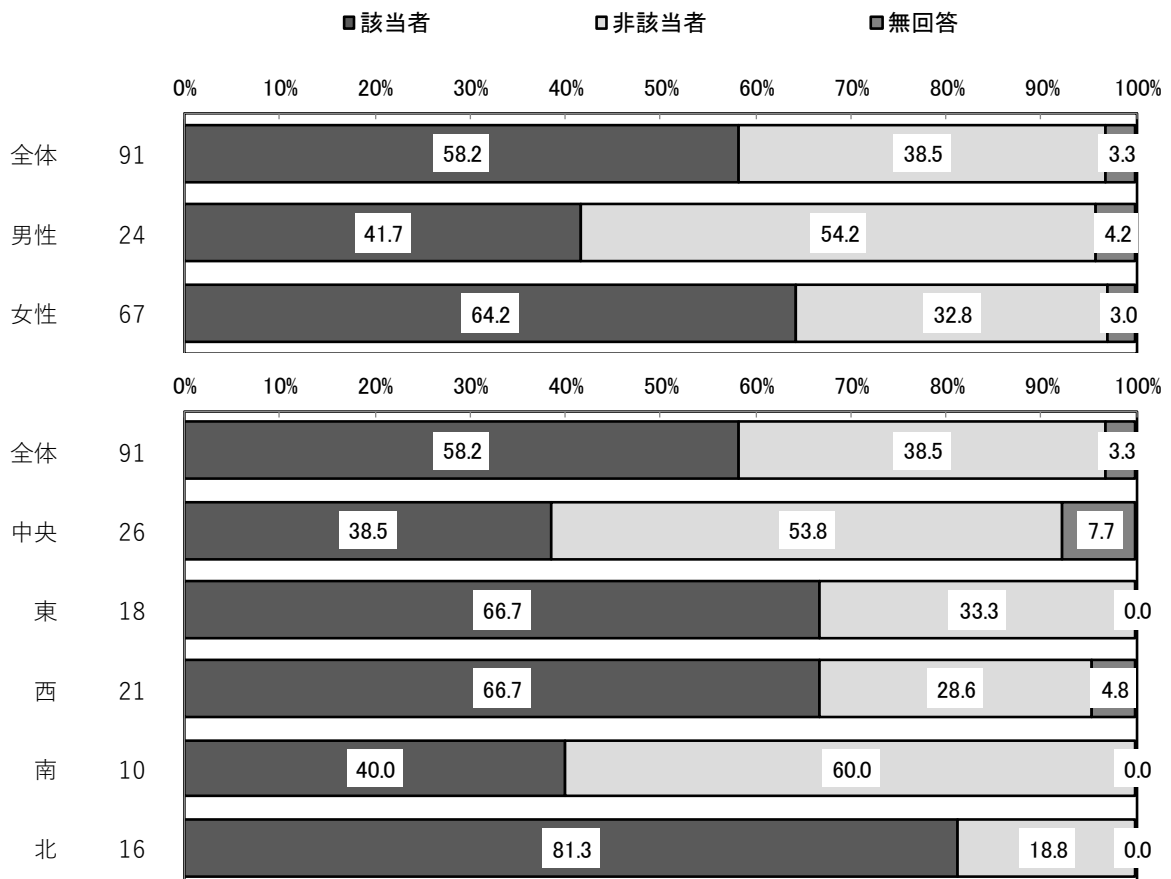
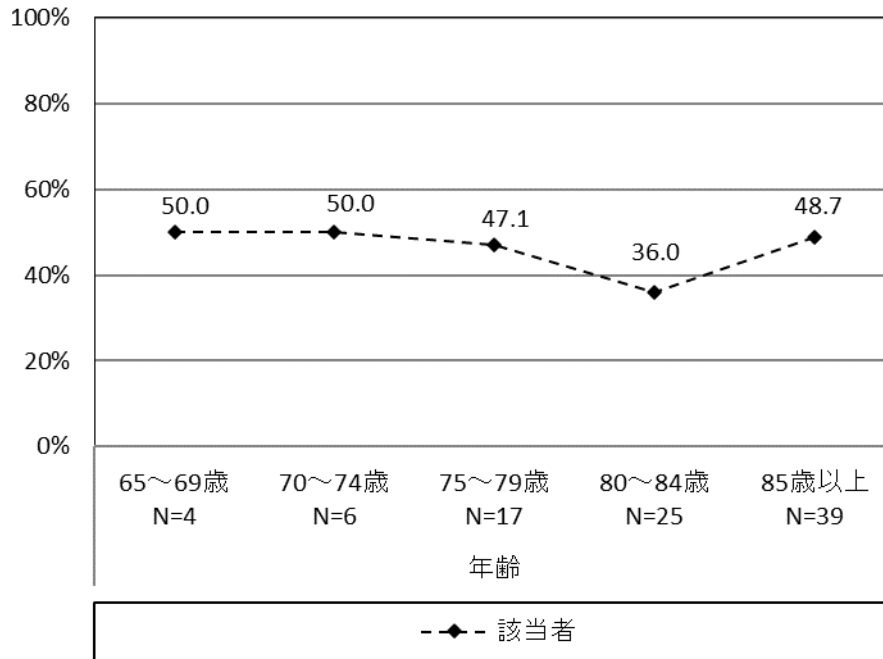


(1) 運動器の機能低下 (要支援認定者) ※「65～69 歳」、「70～74 歳」のサンプルサイズ(N)が小さいためコメントは割愛。(2)～(9)も同様。

年齢で見ると、75 歳以上では「該当者」が 3 割強～5 割未満と高い。

性別で見ると、男性より女性で「該当者」の割合が高い。

圏域別で見ると、北圏域では他の圏域と比べて「該当者」の割合がかなり高い。

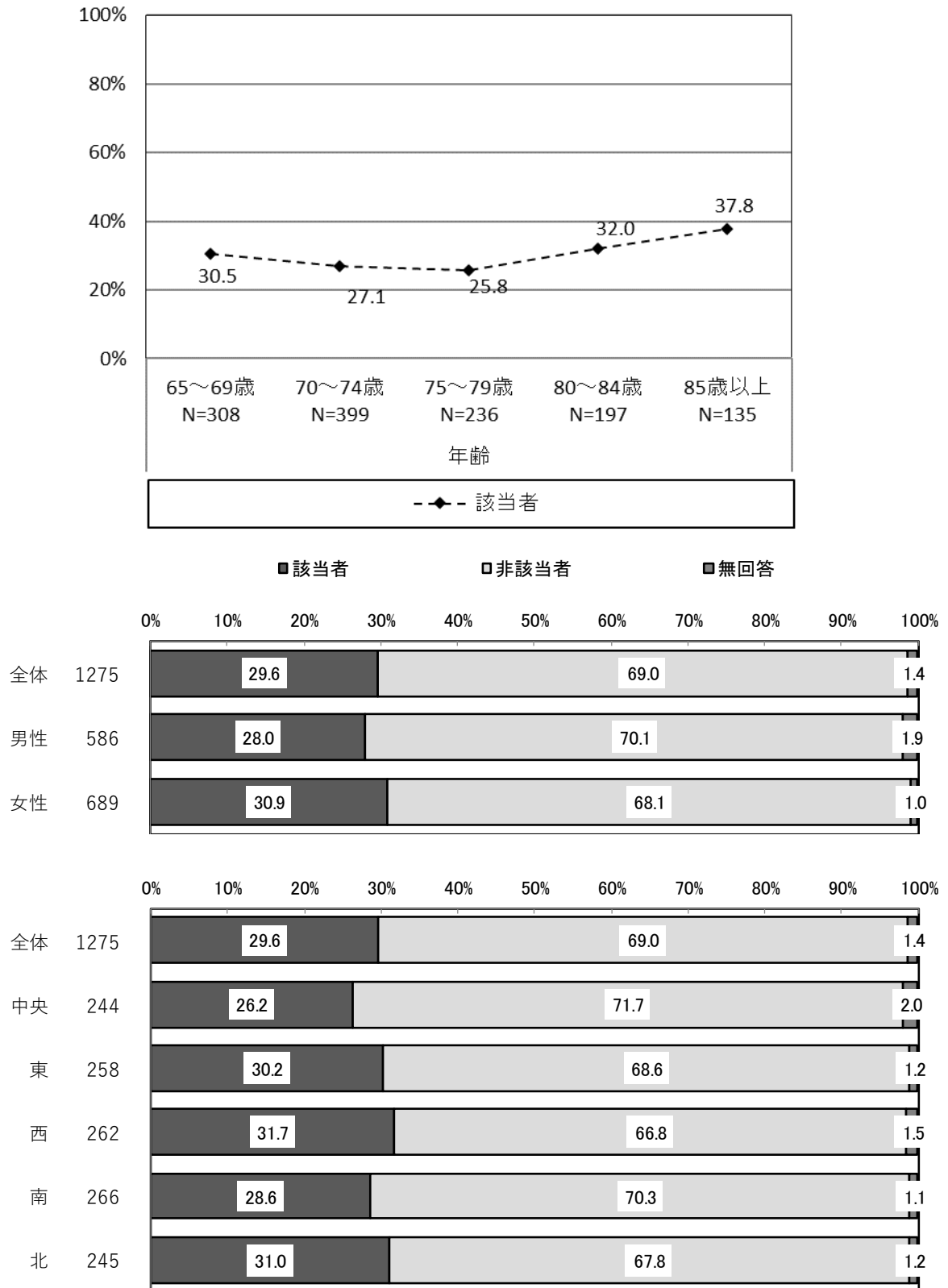


(2) 転倒リスク（一般高齢者）

年齢で見ると、80歳以上では「該当者」が3割を超えている。

性別で見ると、男性より女性で「該当者」の割合が高い。

圏域別で見ると、西圏域では他の圏域と比べて「該当者」の割合がやや高い。

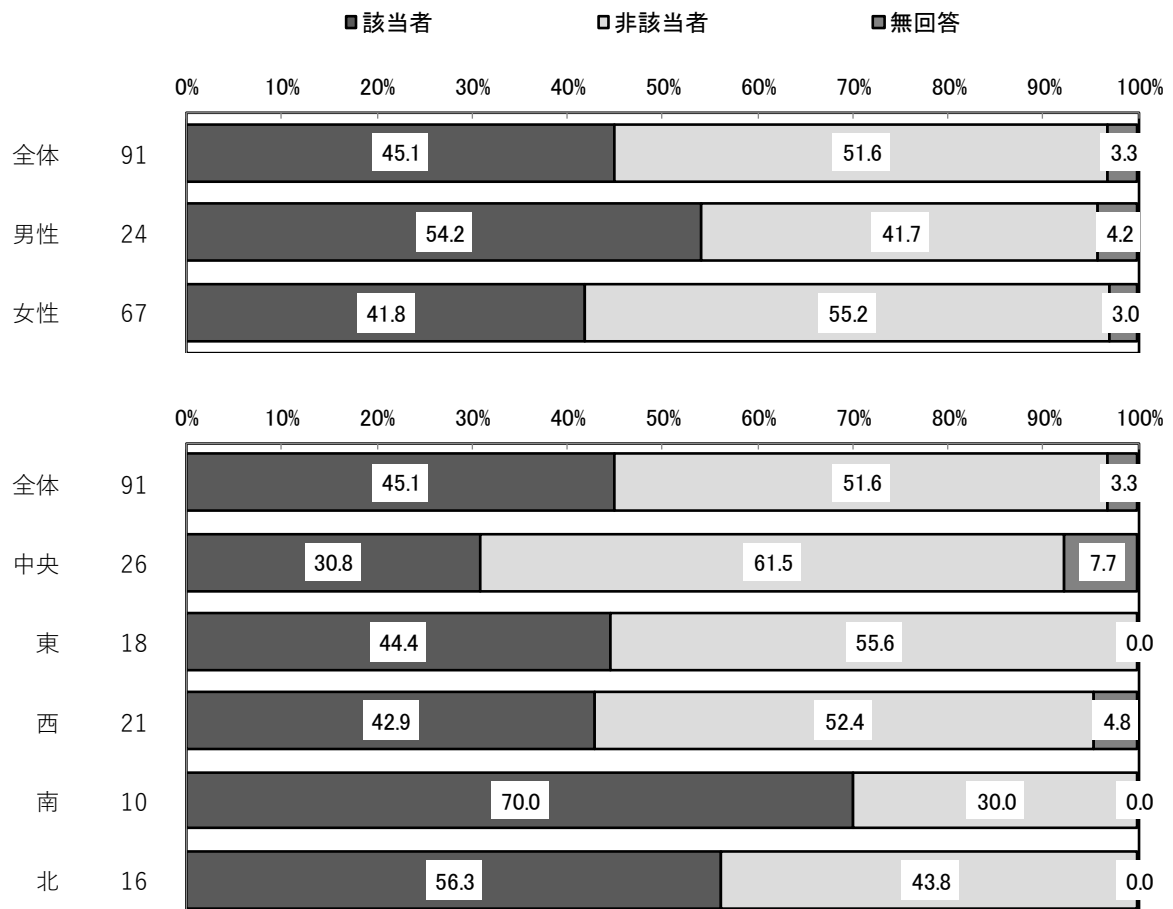
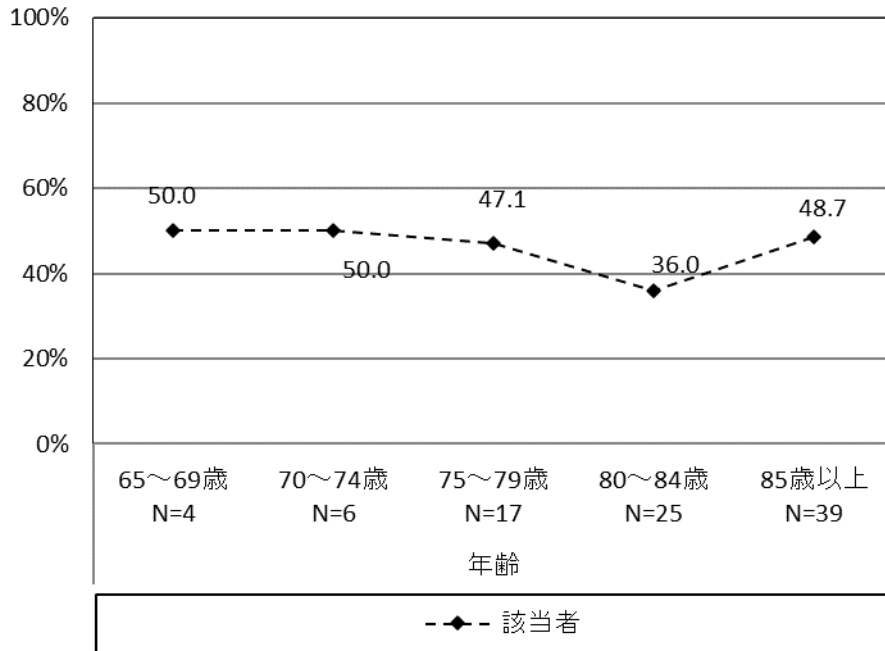


(2) 転倒リスク (要支援認定者)

年齢で見ると、大きな差は見られない。

性別で見ると、女性より男性で「該当者」の割合がやや高い。

圏域別で見ると、南圏域では他の圏域と比べて「該当者」の割合が高い。

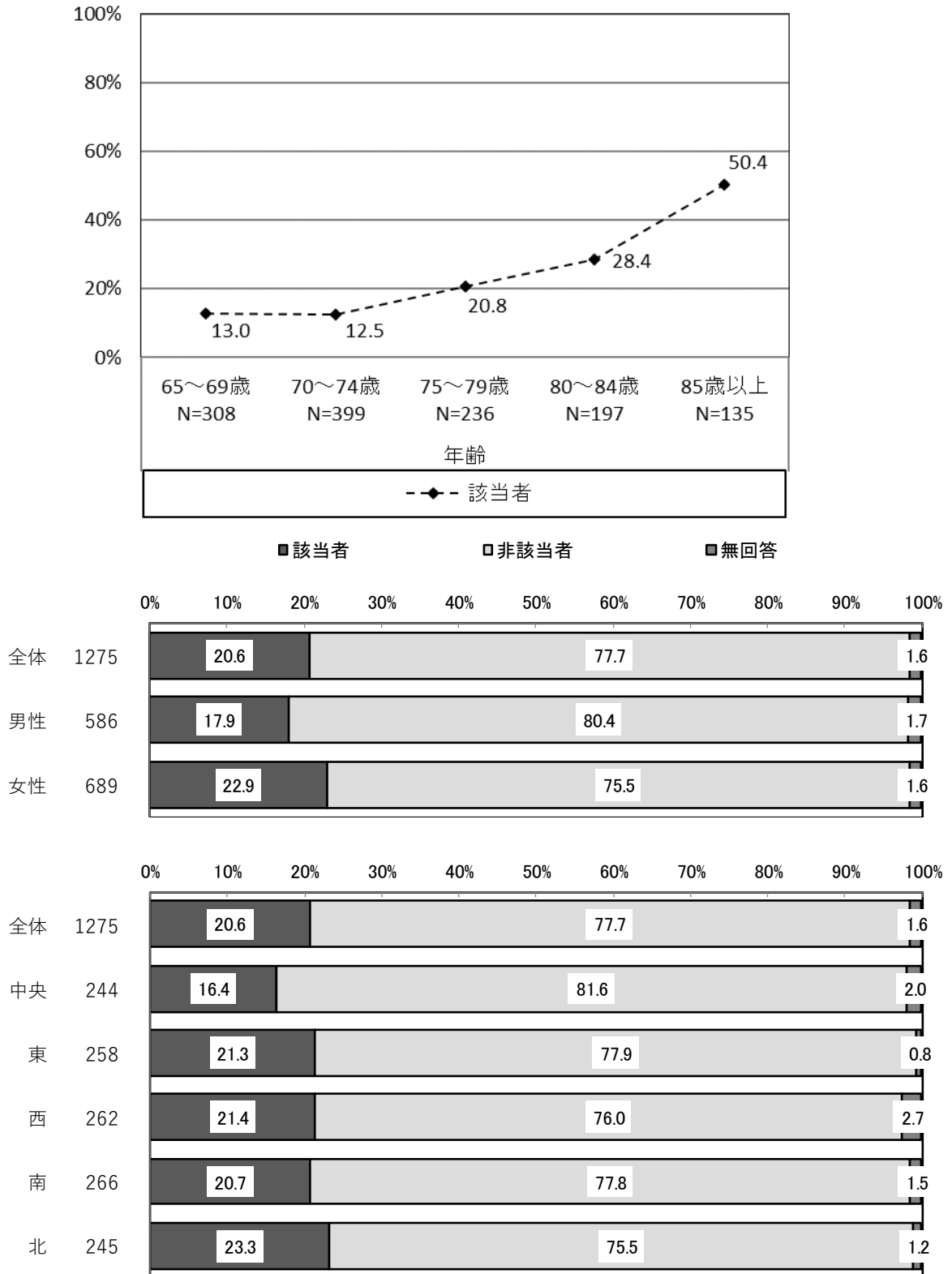


(3) 閉じこもり傾向（一般高齢者）

年齢で見ると、70 歳以上では年齢が上がるにつれて「該当者」の割合が増加し、85 歳以上では「該当者」の割合が 5 割を超える。

性別で見ると、男性より女性で「該当者」の割合がやや高い。

圏域別で見ると、北圏域では他の圏域と比べて「該当者」の割合が高い。

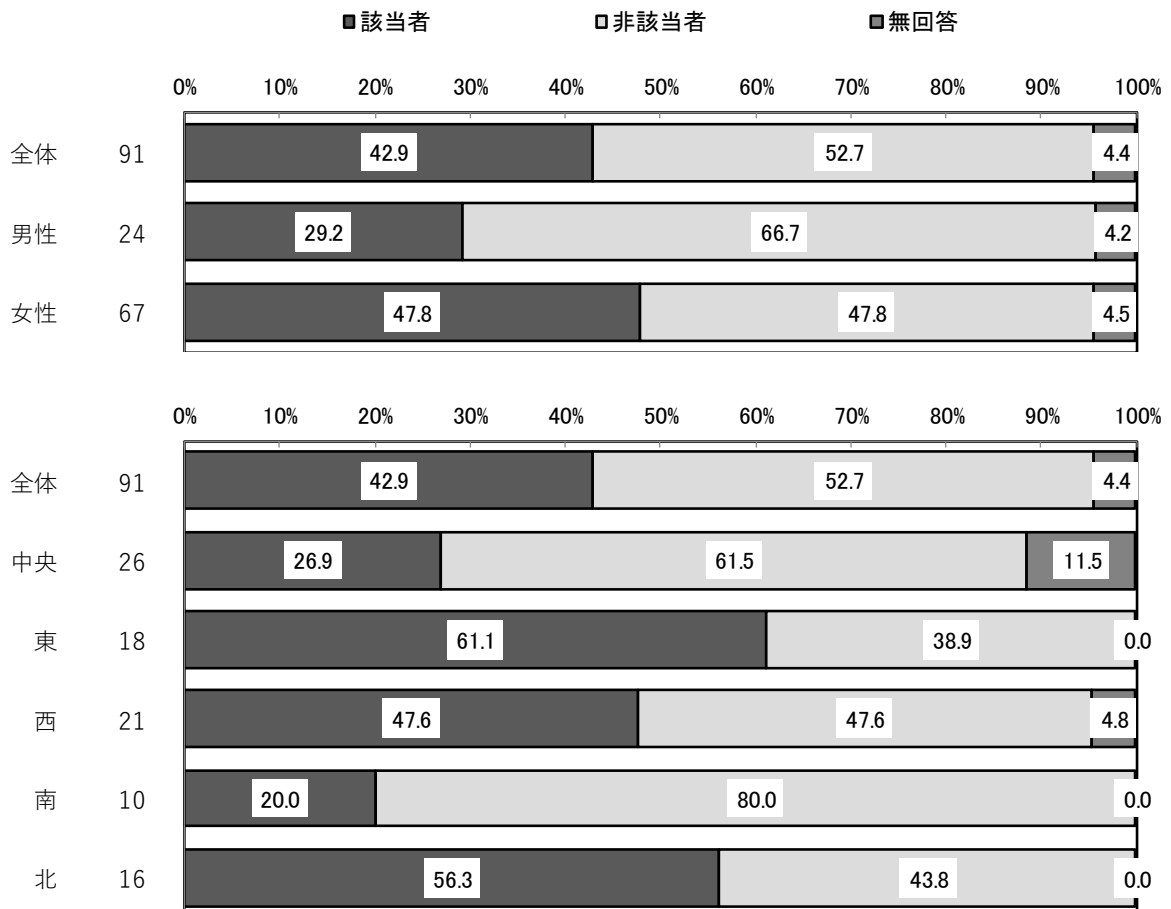
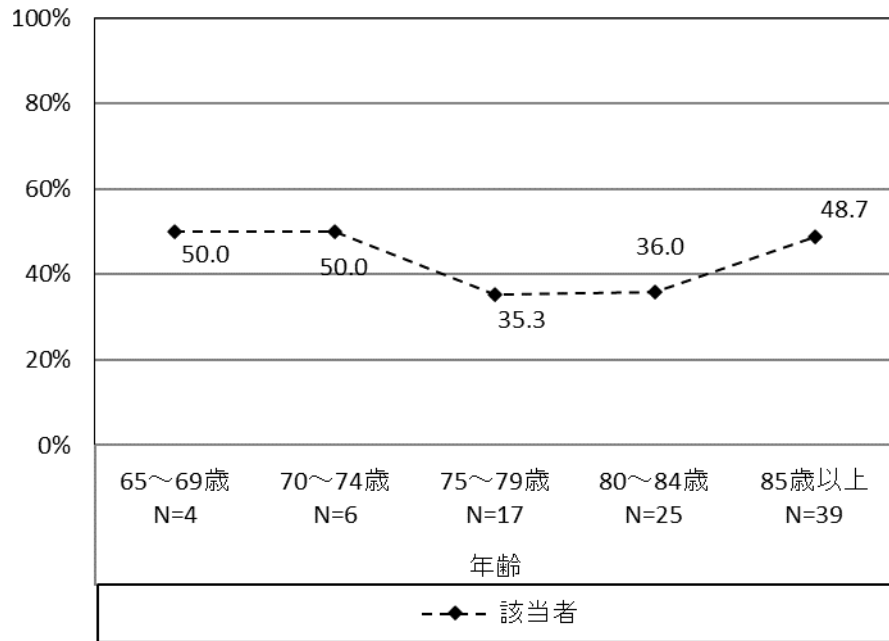


(3) 閉じこもり傾向（要支援認定者）

年齢でみると、年齢が上がるにつれて「該当者」の割合が増加する傾向にある。

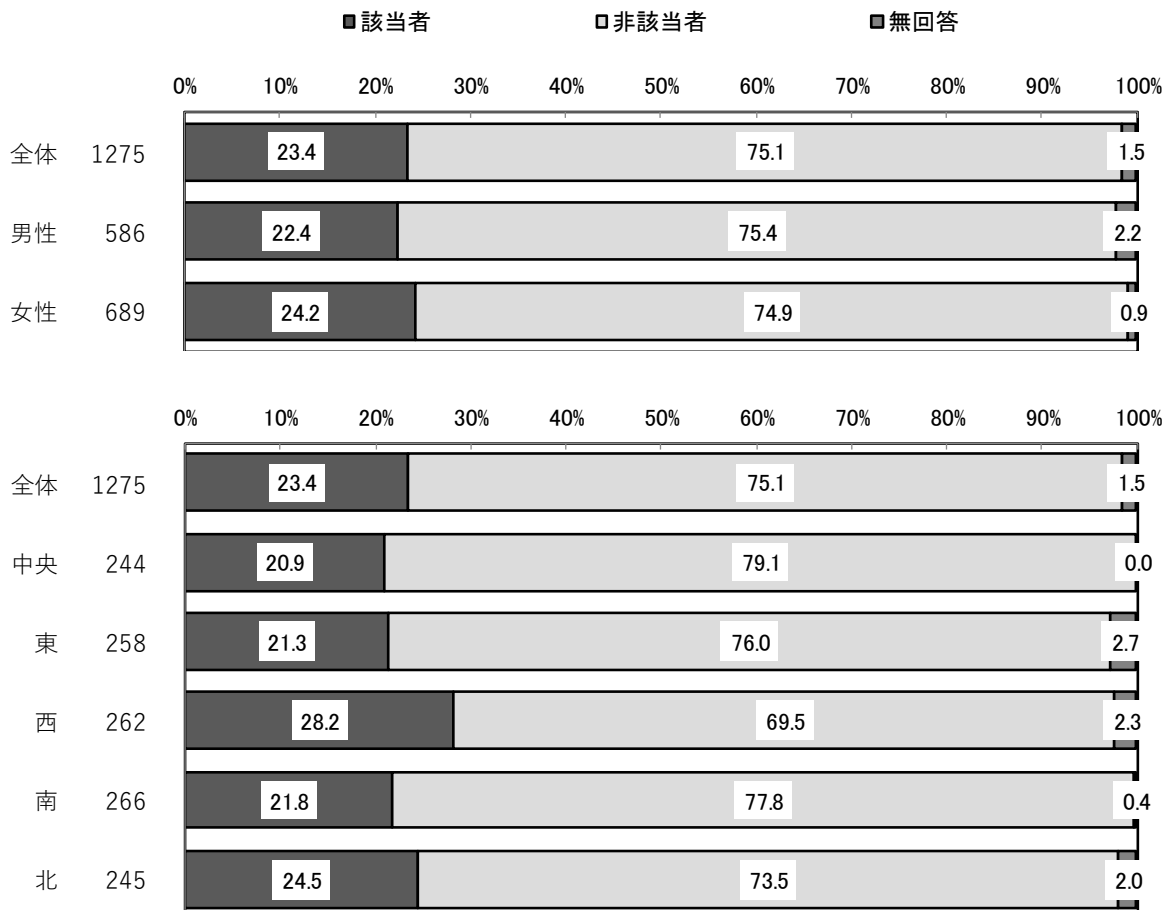
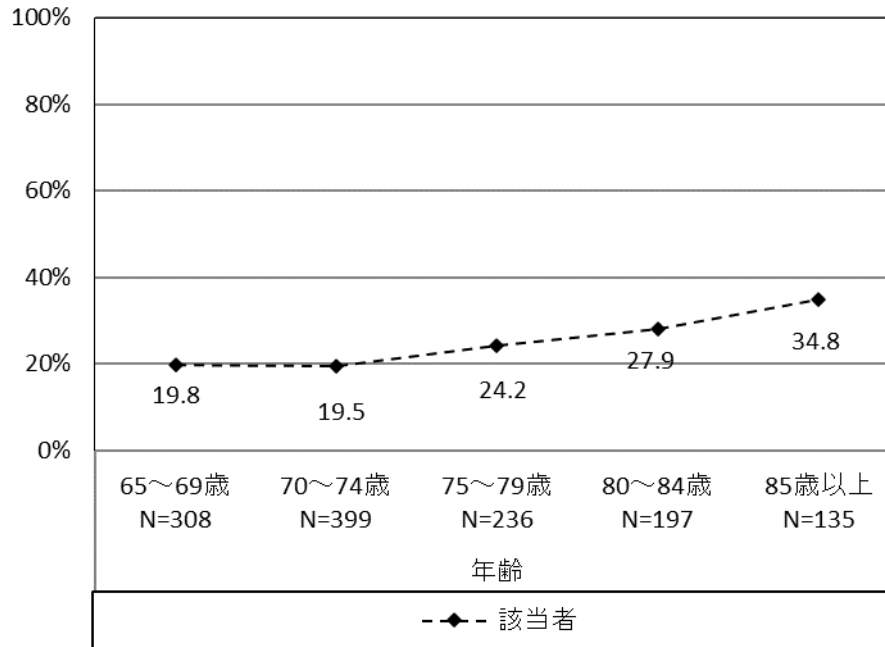
性別でみると、男性より女性で「該当者」の割合が高い。

圏域別でみると、東圏域では他の圏域と比べて「該当者」の割合が高い。



(4) 口腔機能の低下（一般高齢者）

年齢でみると、年齢が上がるにつれて「該当者」の割合が増加する。
 性別でみると、男性より女性で「該当者」の割合が高い。
 圏域別でみると、西圏域では他の圏域と比べて「該当者」の割合が高い。

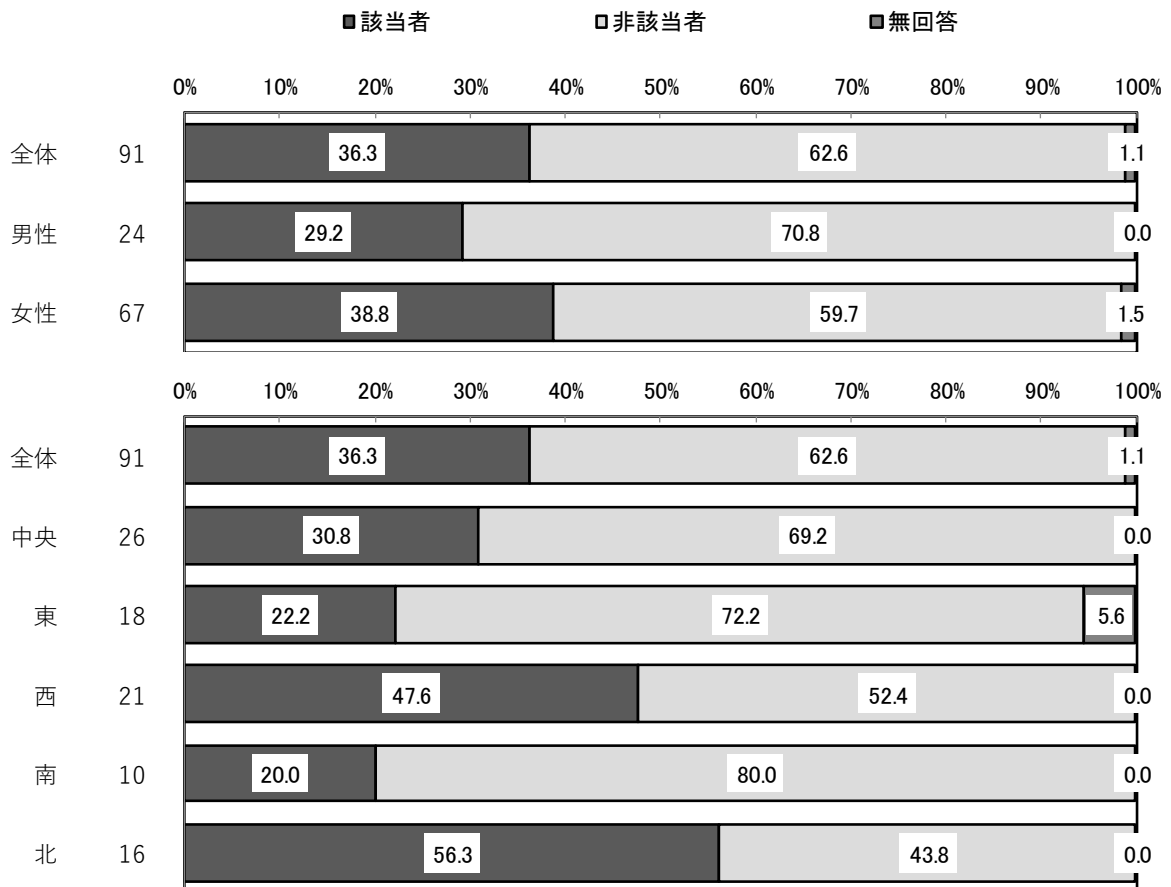
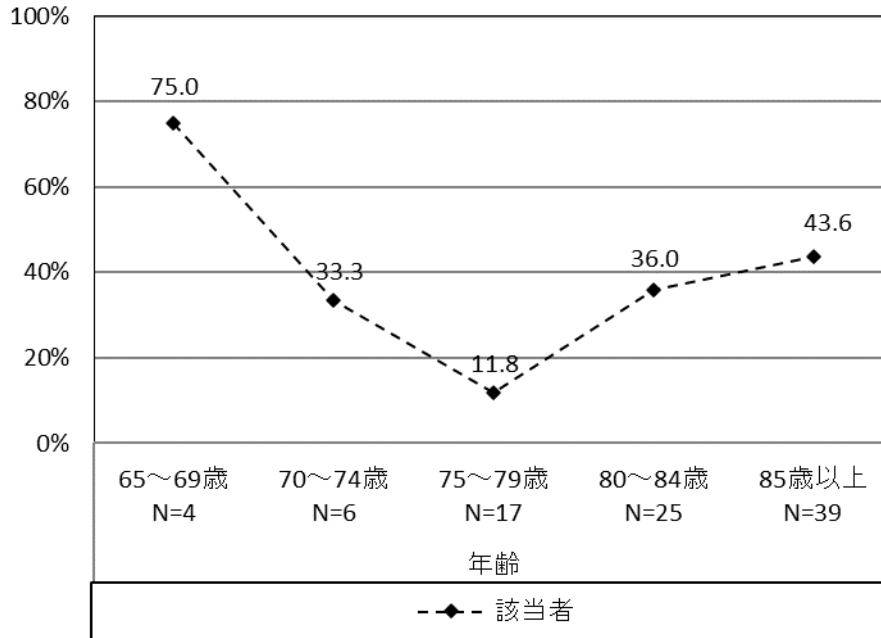


(4) 口腔機能の低下（要支援認定者）

年齢で見ると、85歳以上では「該当者」の割合が4割以上と高い。

性別で見ると、男性より女性で「該当者」の割合が高い。

圏域別で見ると、北圏域では他の圏域と比べて「該当者」の割合が高い。

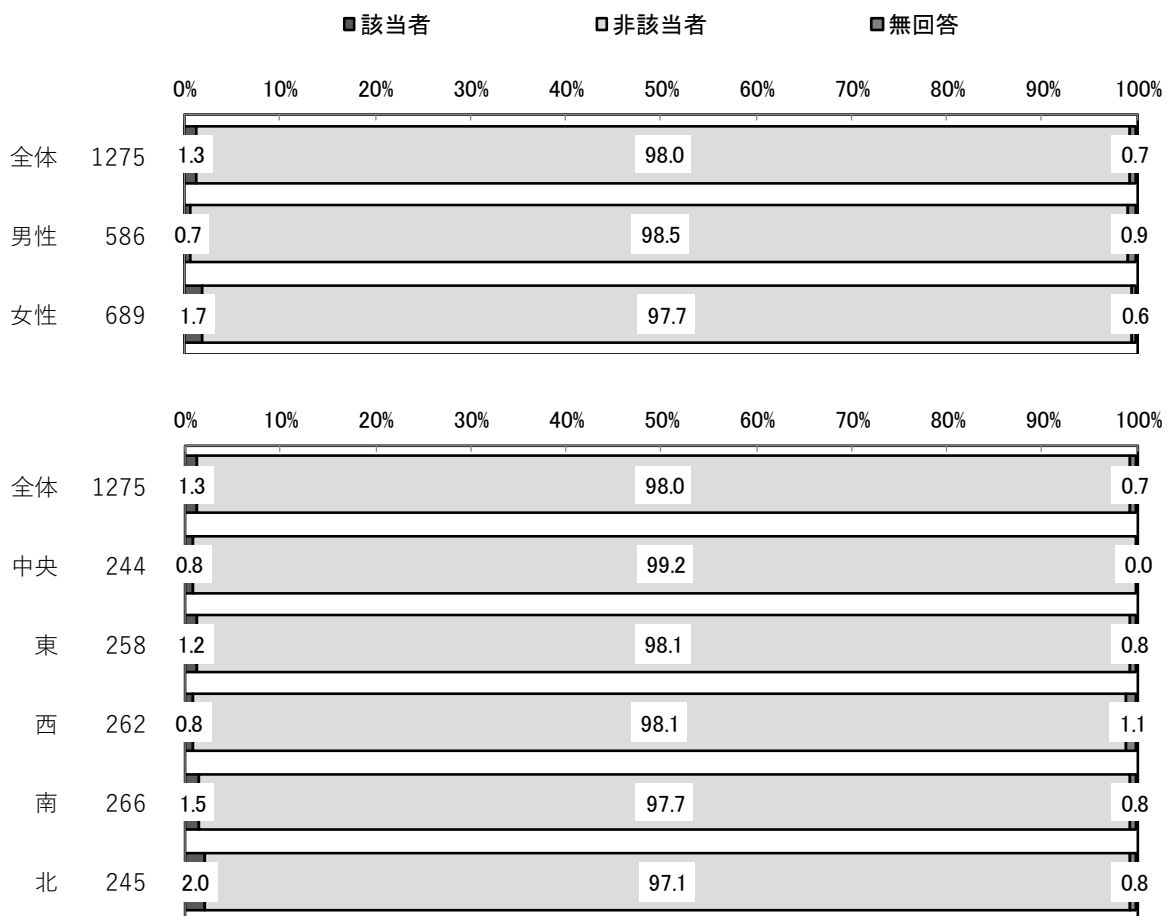
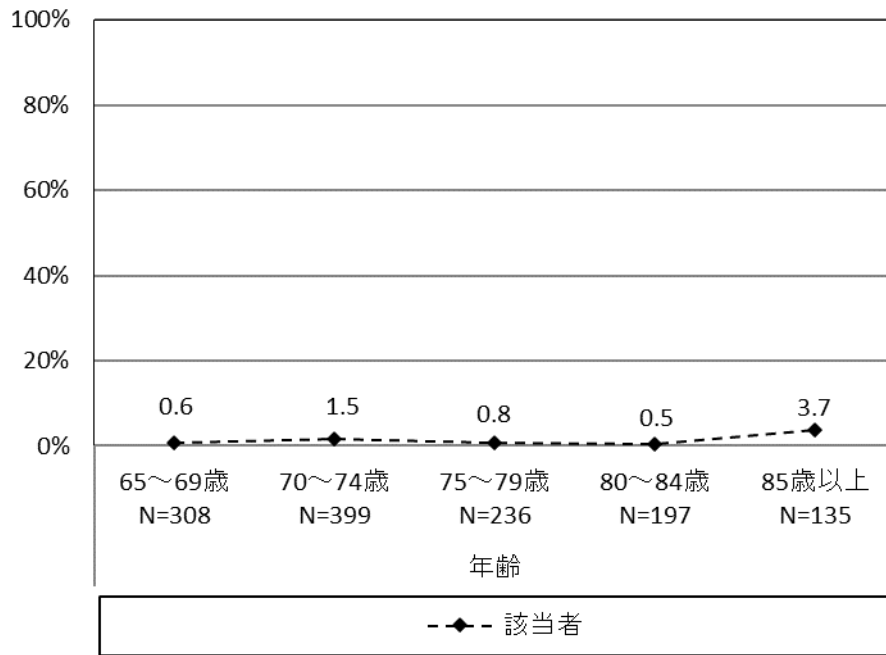


(5) 低栄養の傾向（一般高齢者）

年齢で見ると、大きな差は見られず、どの年齢でも低い。

性別で見ると、大きな差は見られず、男女とも低い。

圏域別でも、大きな差は見られない。

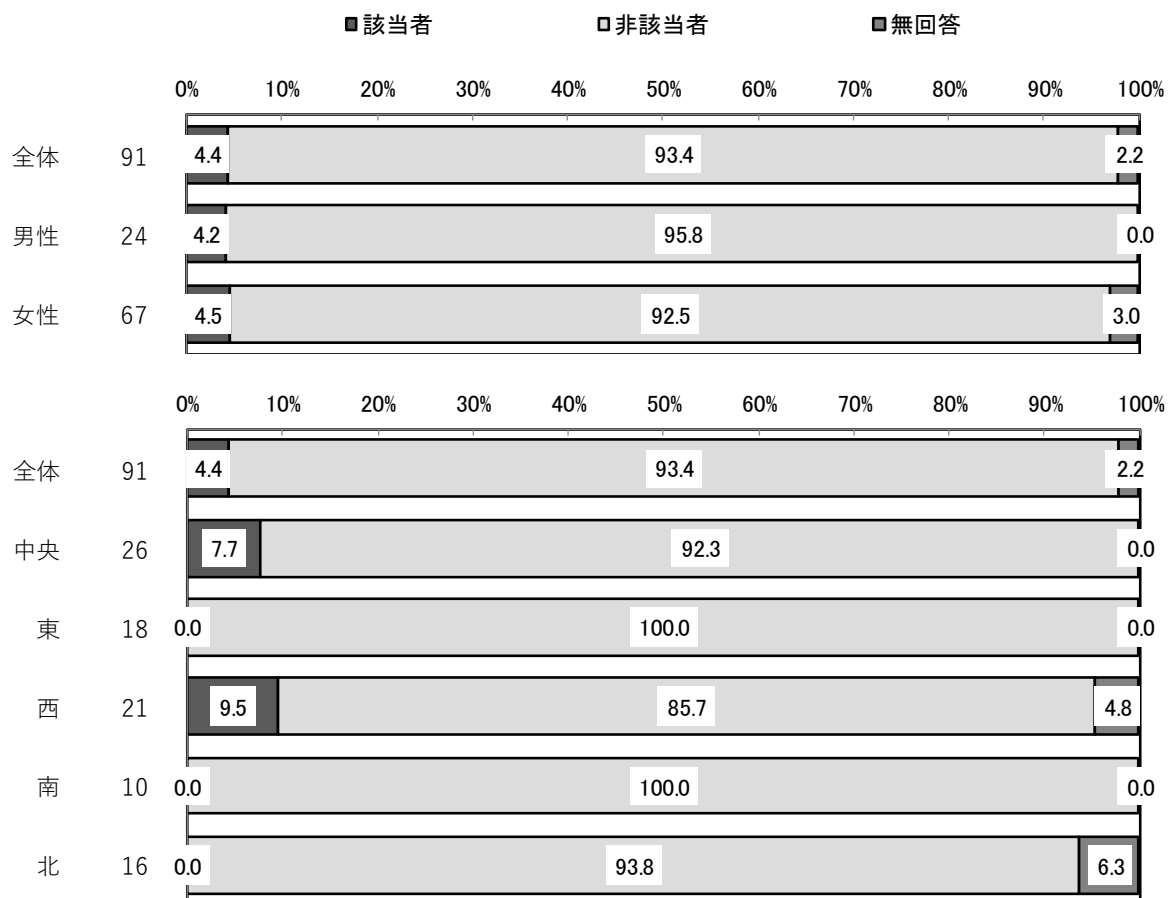
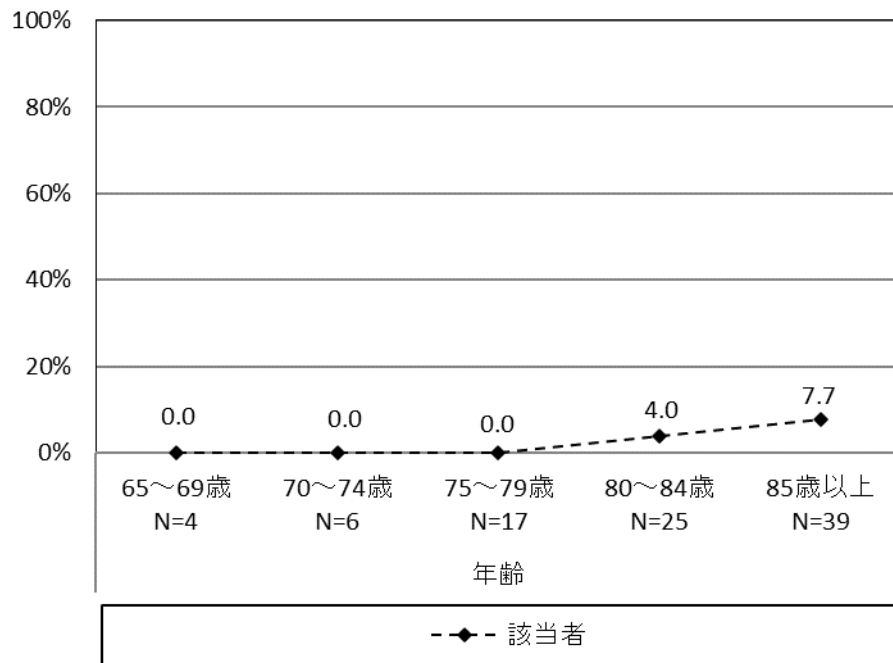


(5) 低栄養の傾向（要支援認定者）

年齢で見ると、80歳以上にのみ「該当者」が存在している。

性別で見ると、「該当者」は男性よりも女性の方が高い。

圏域別で見ると、西圏域、中央圏域では「該当者」の割合が高い。

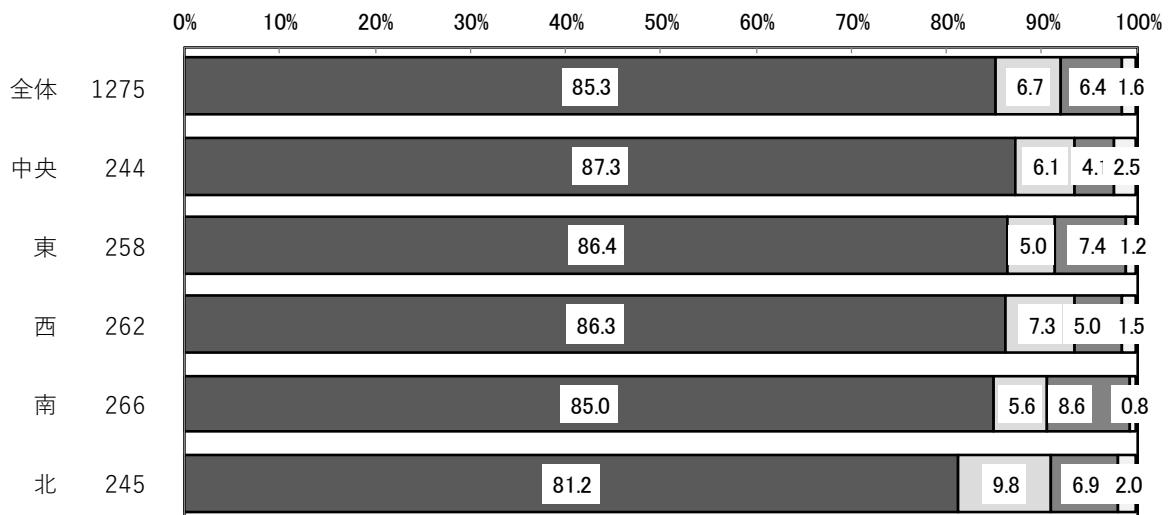
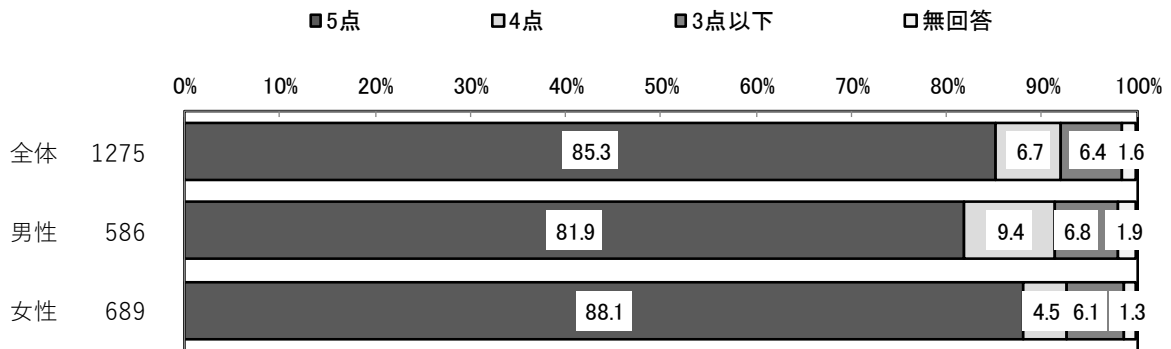
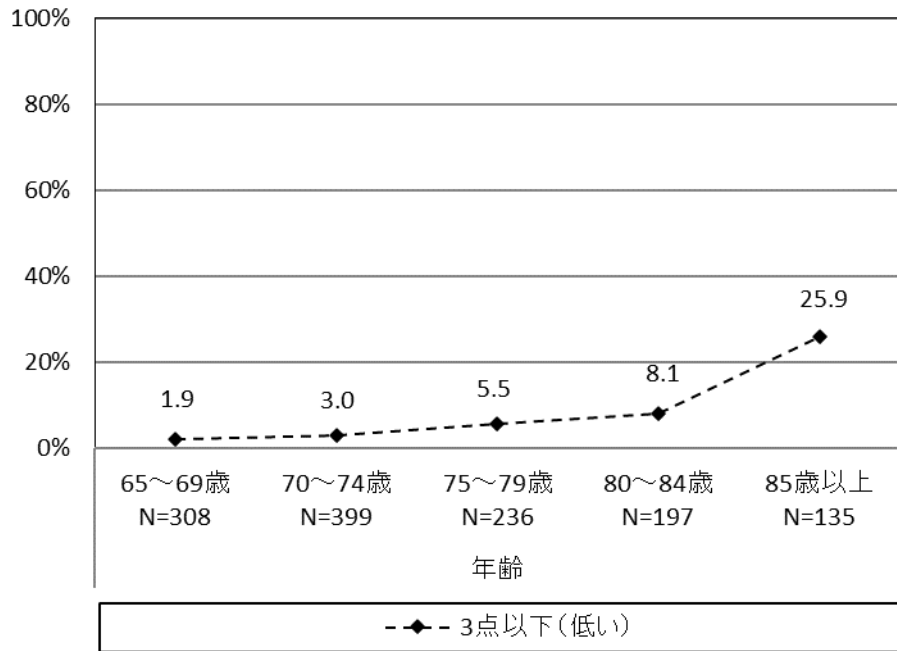


(6) 手段的日常生活動作 (IADL) 尺度 (一般高齢者)

年齢で見ると、年齢が上がるにつれて「3 点以下 (低い)」の割合が増加し、85 歳以上では 2 割半ばとなる。

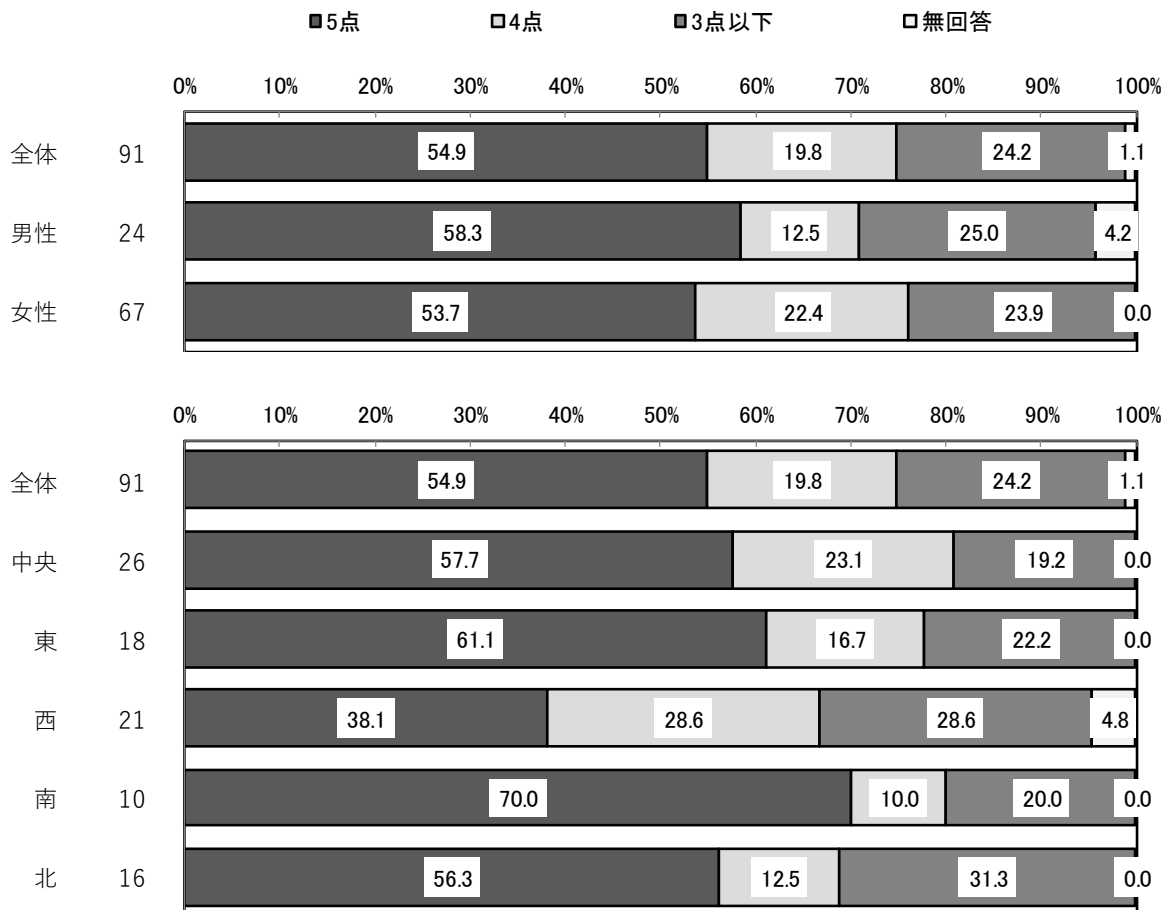
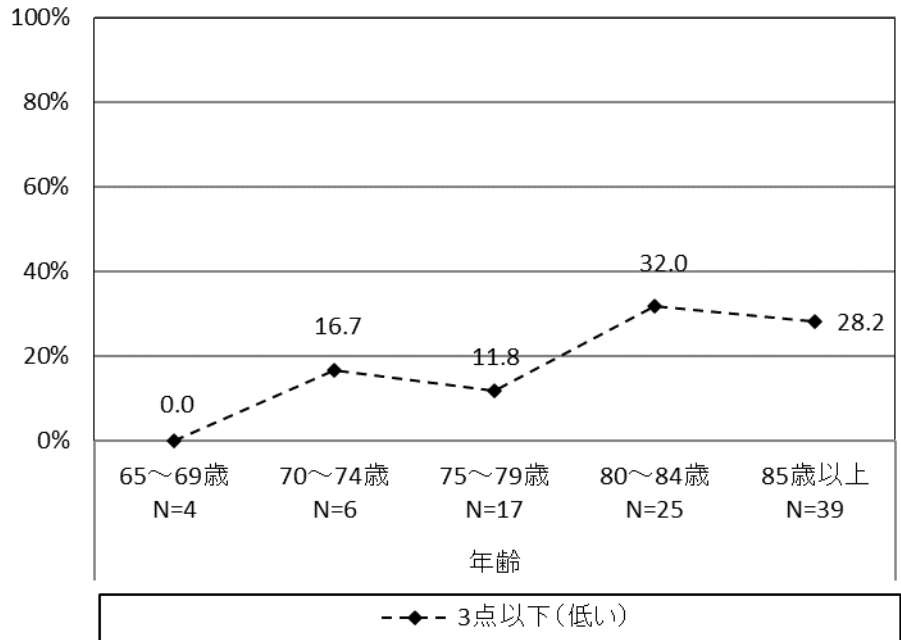
性別で見ると、女性より男性で「3 点以下 (低い)」の割合が高い。

圏域別で見ると、南圏域では他の圏域と比べて「3 点以下 (低い)」の割合が高い。



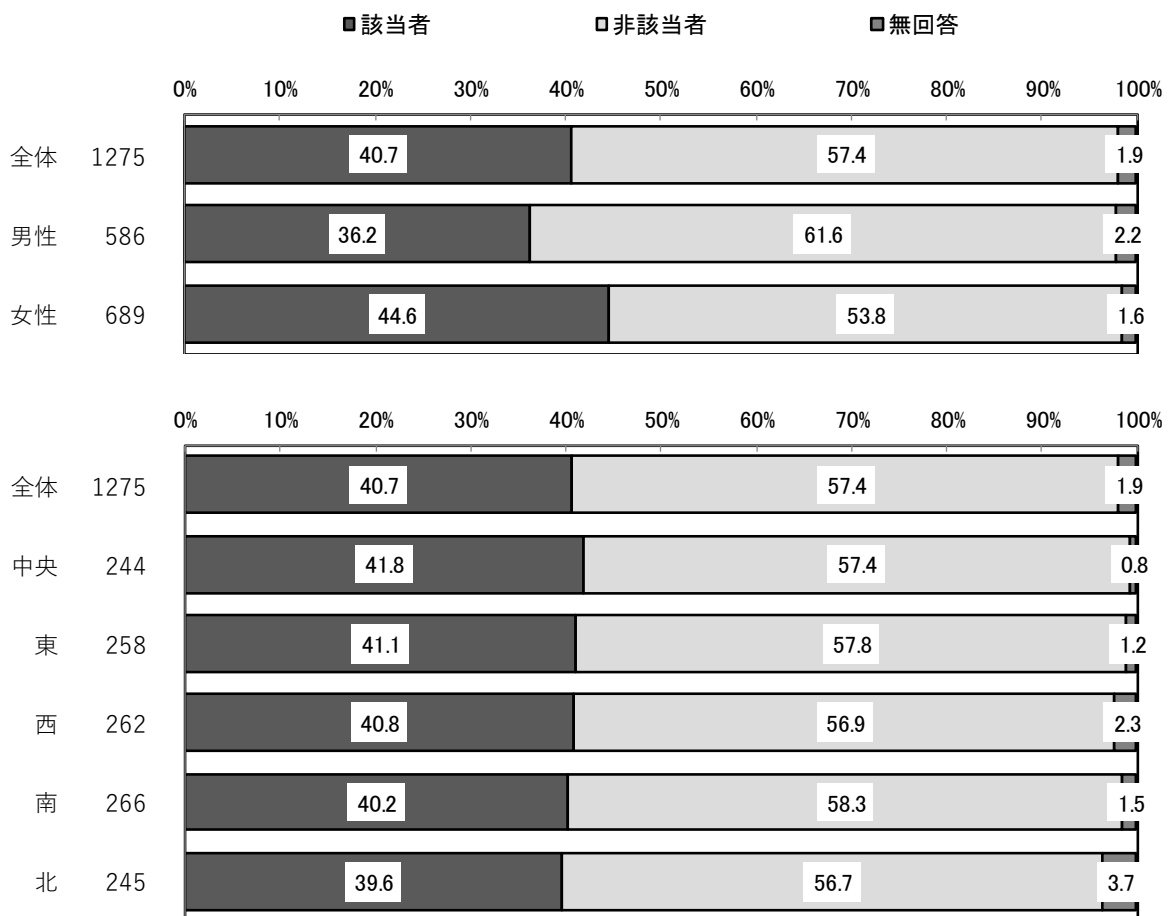
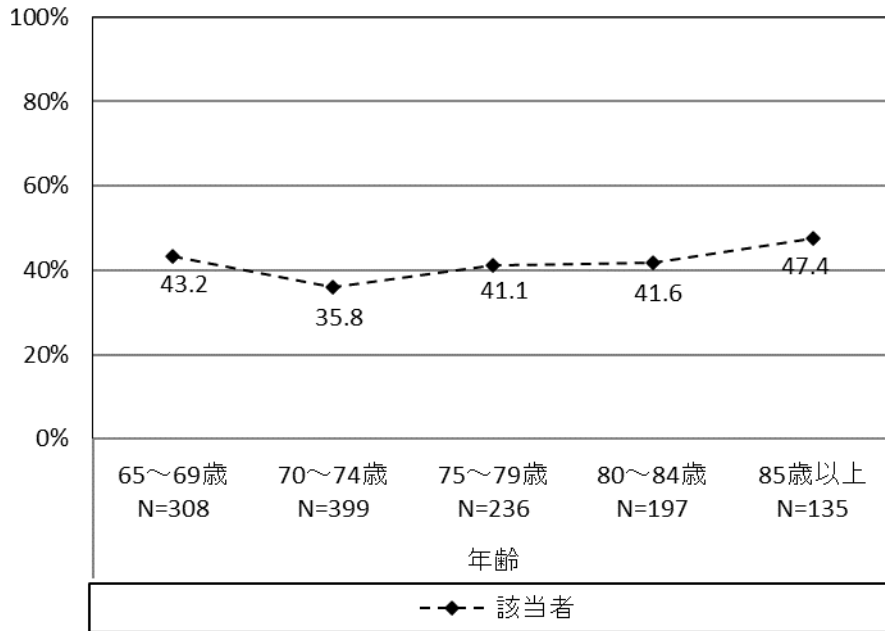
(6) 手段的日常生活動作 (IADL) 尺度 (要支援認定者)

年齢で見ると、80歳以上では「3点以下(低い)」の割合が3割程度となっている。
 性別で見ると、女性より男性で「3点以下(低い)」の割合が高い。
 圏域別で見ると、北圏域では他の圏域と比べて「3点以下(低い)」の割合が高い。



(7) うつ傾向（一般高齢者）

年齢で見ると、ほとんどの年齢層において4割を超えている。
 性別で見ると、男性より女性で「該当者」の割合が高い。
 圏域別で見ると、中央圏域では「該当者」の割合が高い。

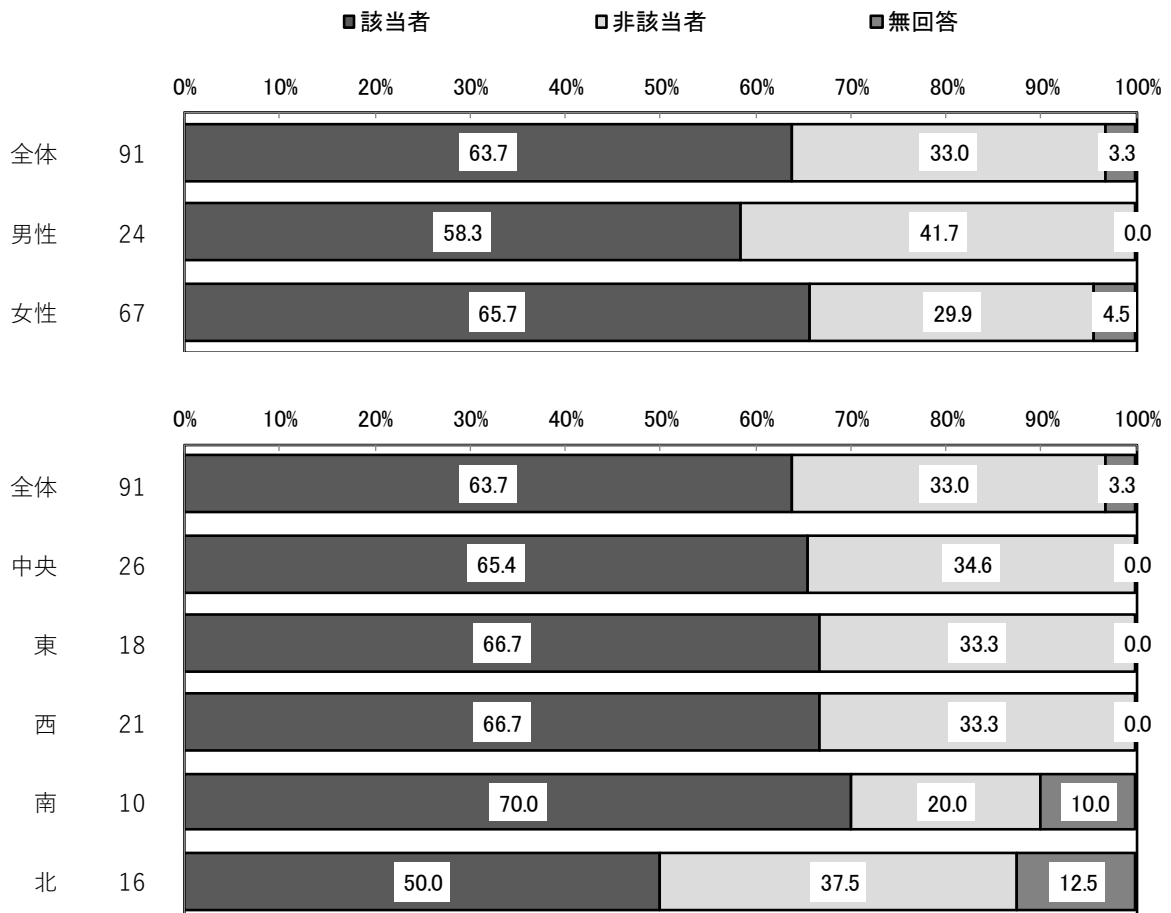
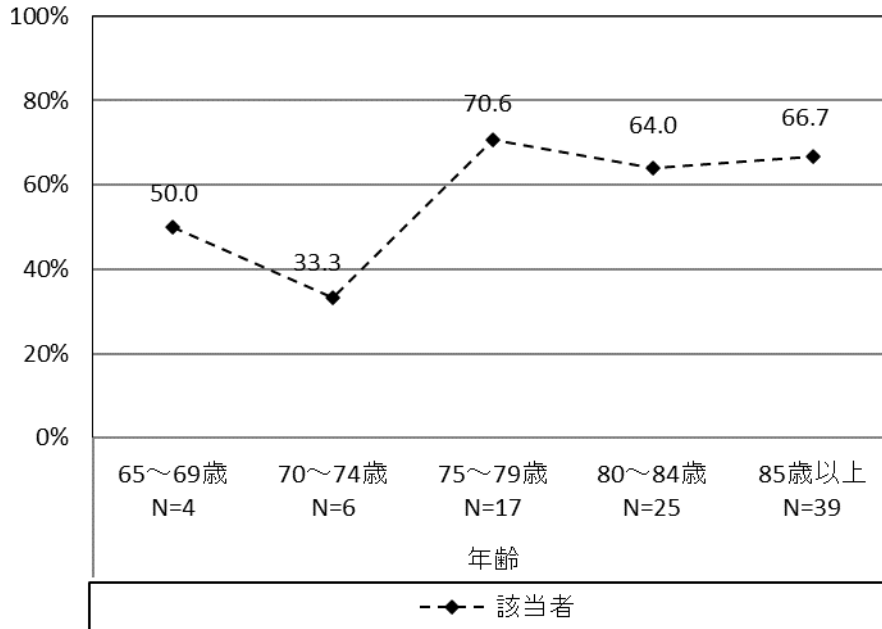


(7) うつ傾向（要支援認定者）

年齢でみると、75歳以上では「該当者」の割合が6割以上と高い。

性別でみると、男性より女性で「該当者」の割合が高い。

圏域別でみると、南圏域では他の圏域と比べて「該当者」の割合が高い。



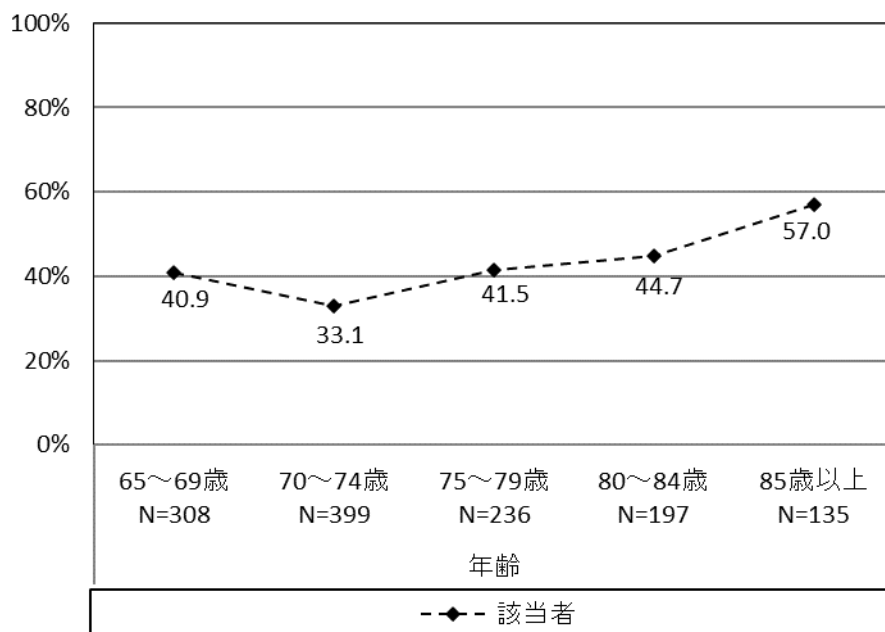
【参考】うつ傾向（一般高齢者）

リスク判定分析のうち、もっともリスクが高いうつ傾向について、項目別の分析を行った。

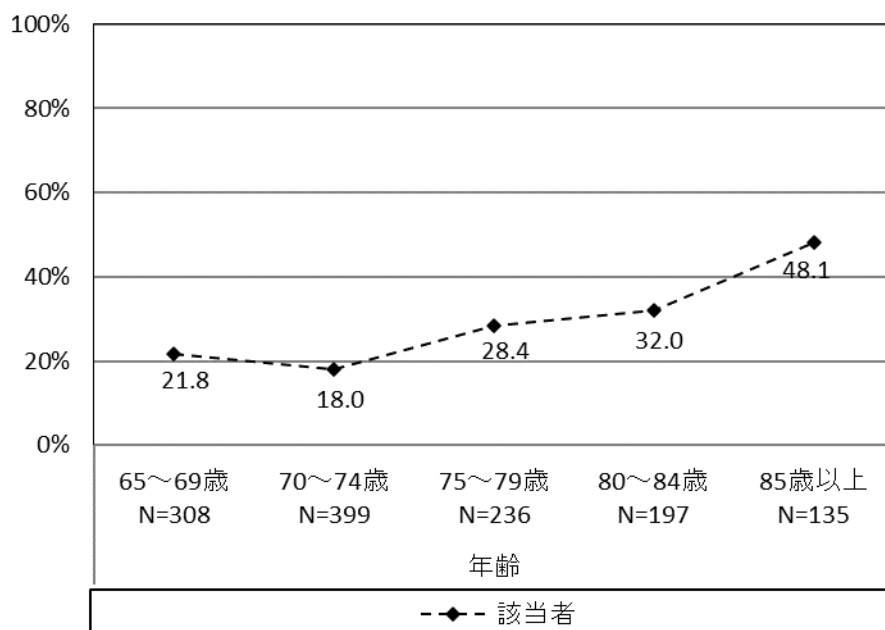
一般高齢者のうち、年齢別および項目別に見ると、問7「（3）この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか」のほうが全体的にリスクの高い状況。

設問番号	設問内容	選択肢
問7（3）	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
問7（4）	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

【問7（3）】



【問7（4）】



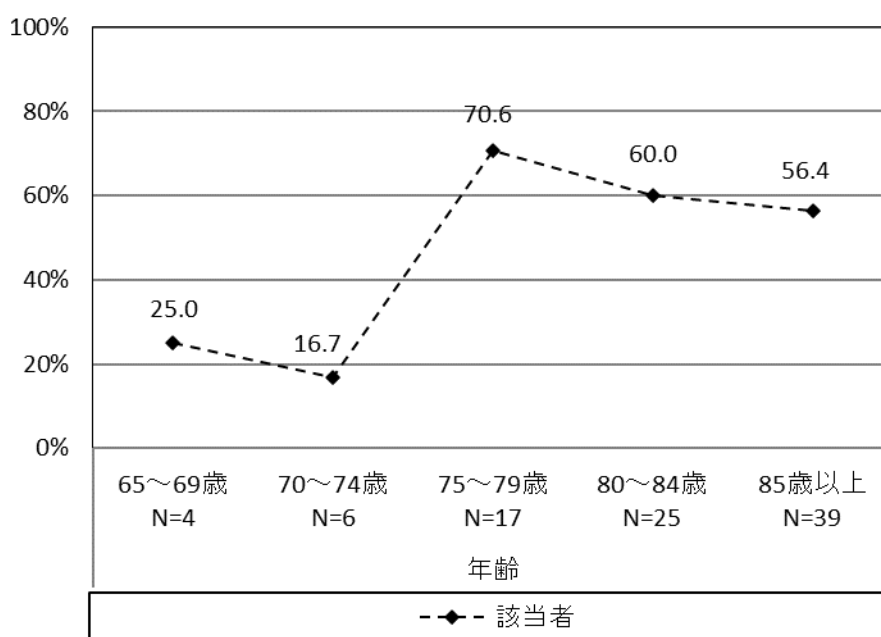
(参考) うつ傾向 (要支援認定者)

リスク判定分析のうち、もっともリスクが高いうつ傾向について、項目別の分析を行った。

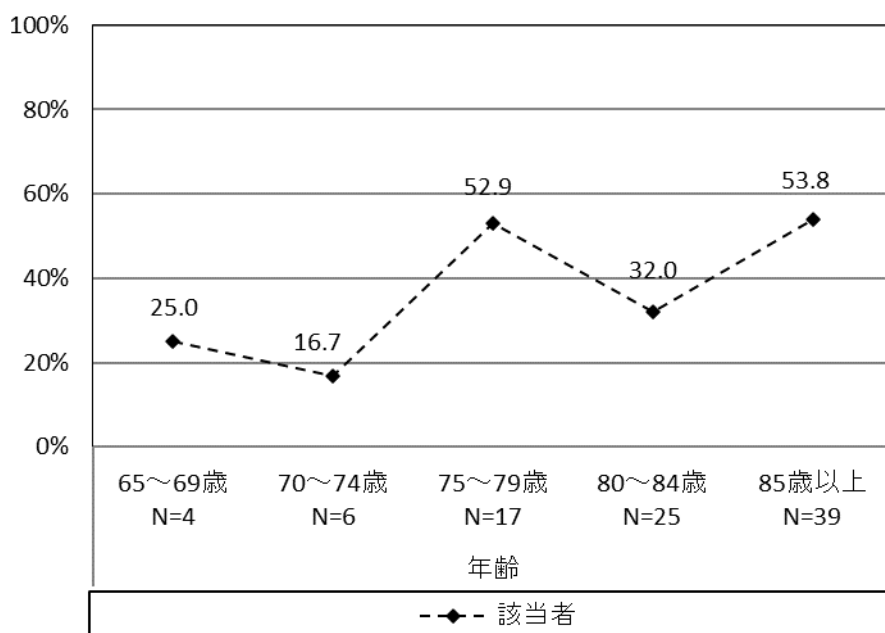
要支援認定者のうち、年齢別および項目別に見ると、問7「(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか」のほうが全体的にリスクの高い状況。

設問番号	設問内容	選択肢
問7(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
問7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

【問7(3)】



【問7(4)】

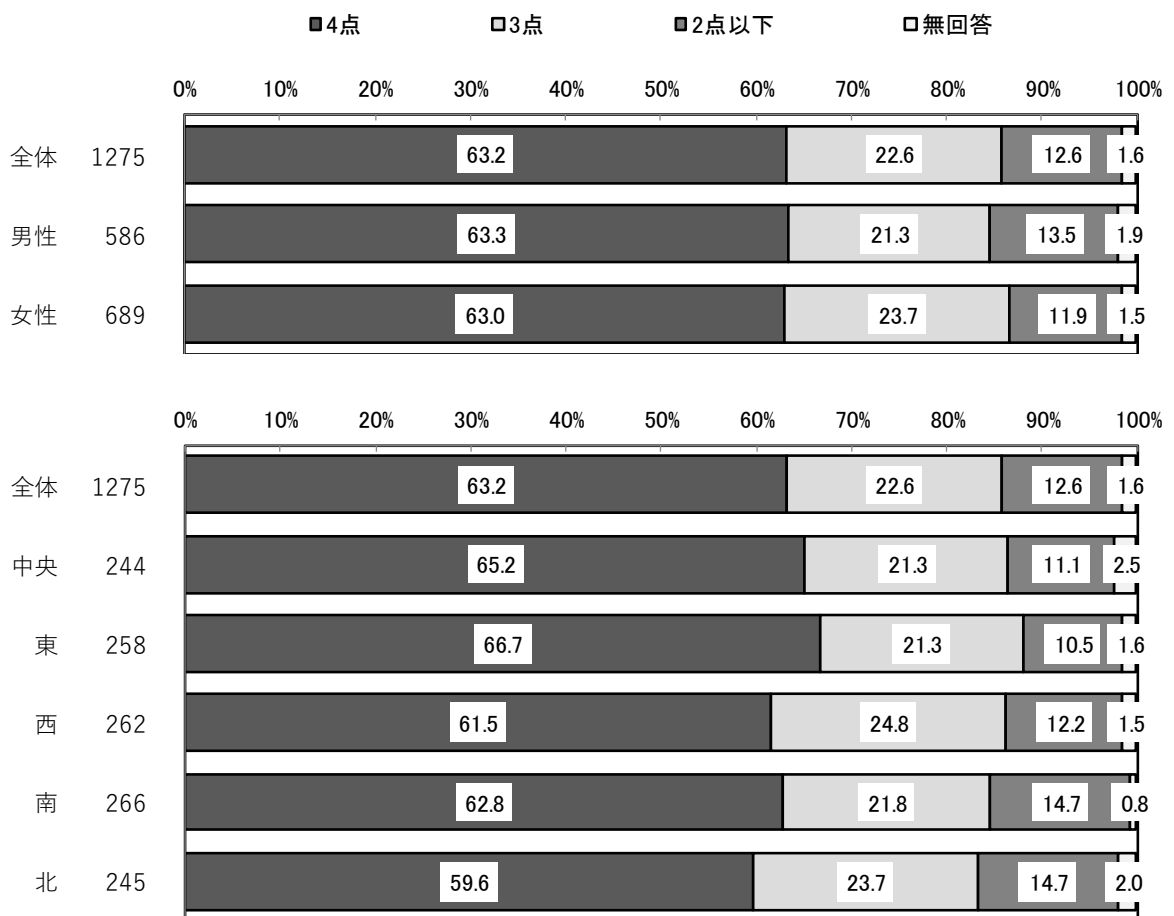
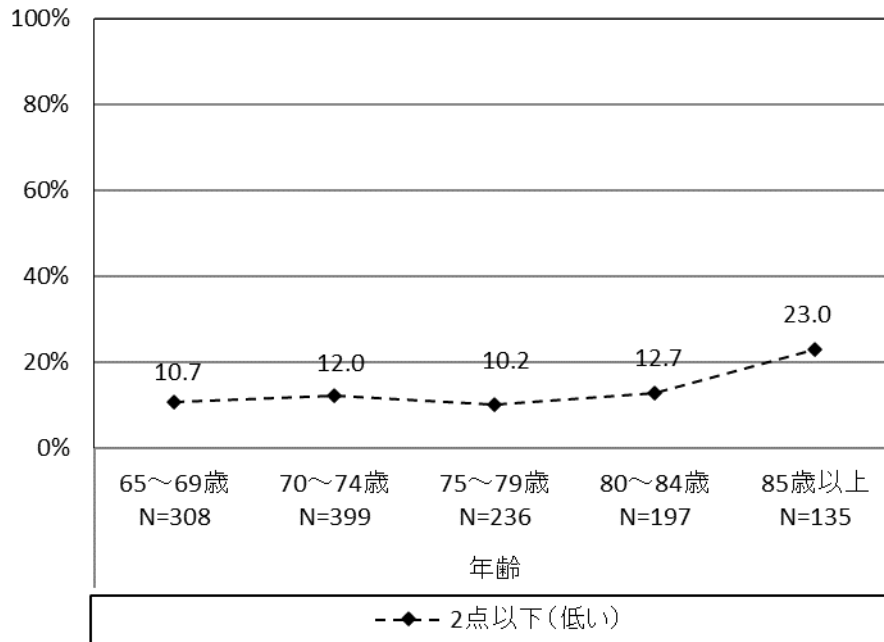


(8) 知的能動性（一般高齢者）

年齢で見ると、85歳以上では「2点以下（低い）」の割合が2割以上となっている。

性別で見ると、女性より男性で「2点以下（低い）」の割合がやや高い。

圏域別で見ると、南圏域、北圏域では「2点以下（低い）」の割合がやや高い。

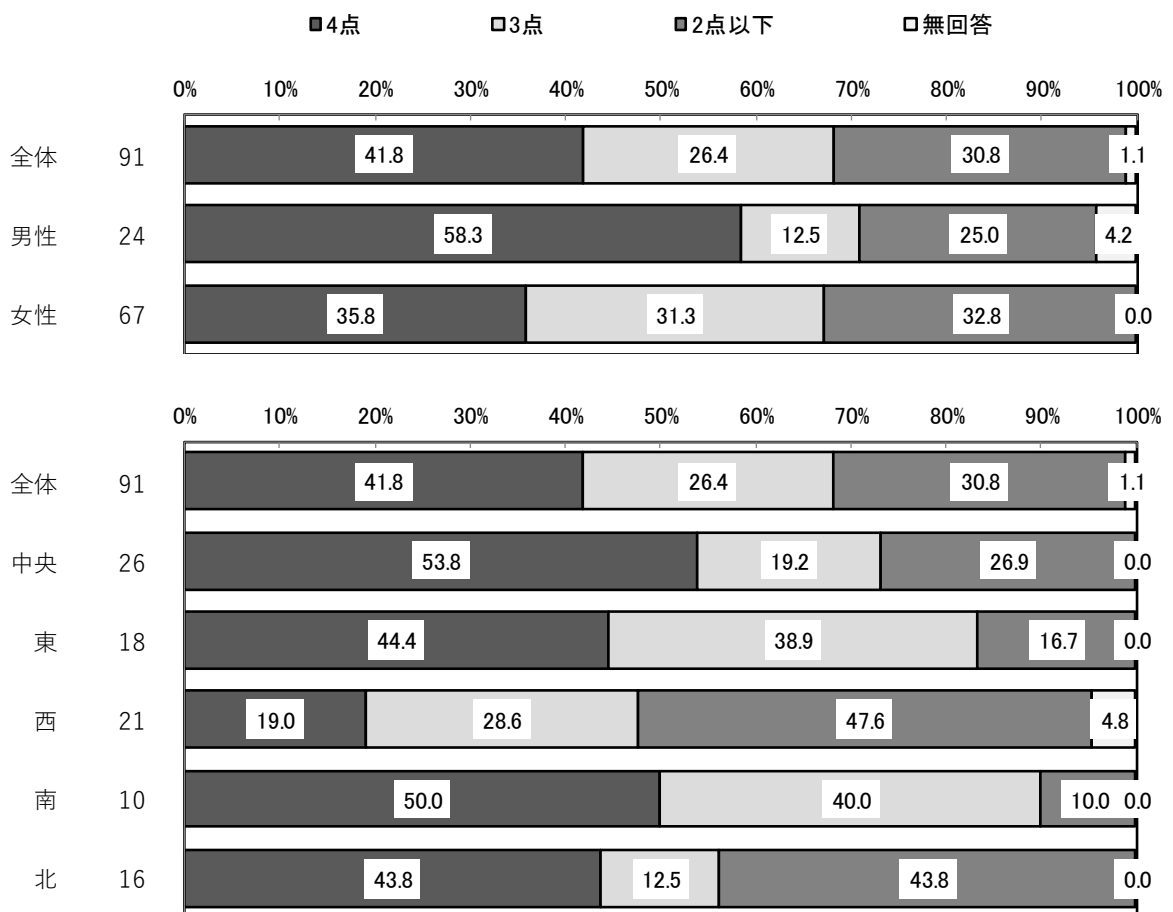
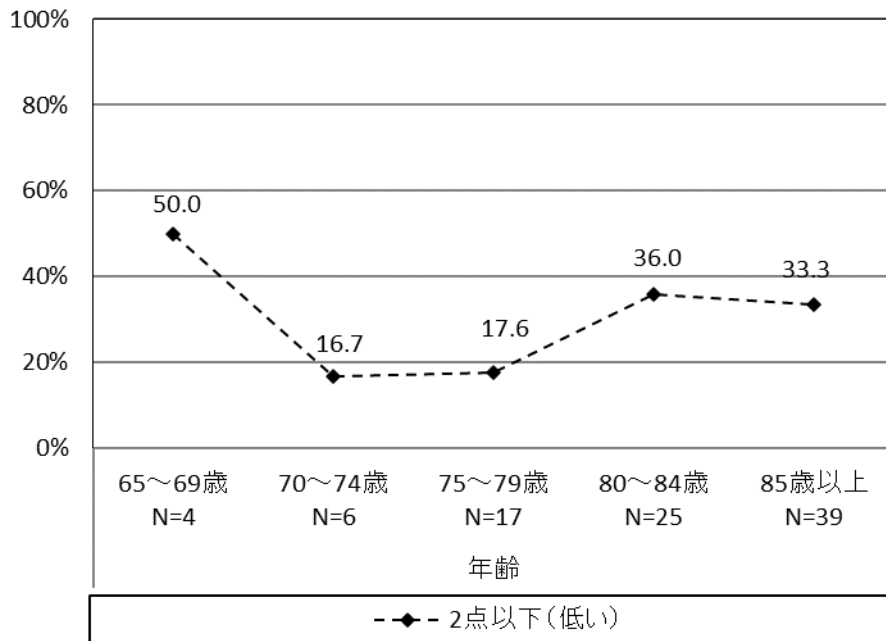


(8) 知的能動性 (要支援認定者)

年齢で見ると、80歳以上では「2点以下(低い)」の割合が3割を超えている。

性別で見ると、男性より女性で「2点以下(低い)」の割合が高い。

圏域別で見ると、西圏域では他の圏域と比べて「2点以下(低い)」の割合が高い。

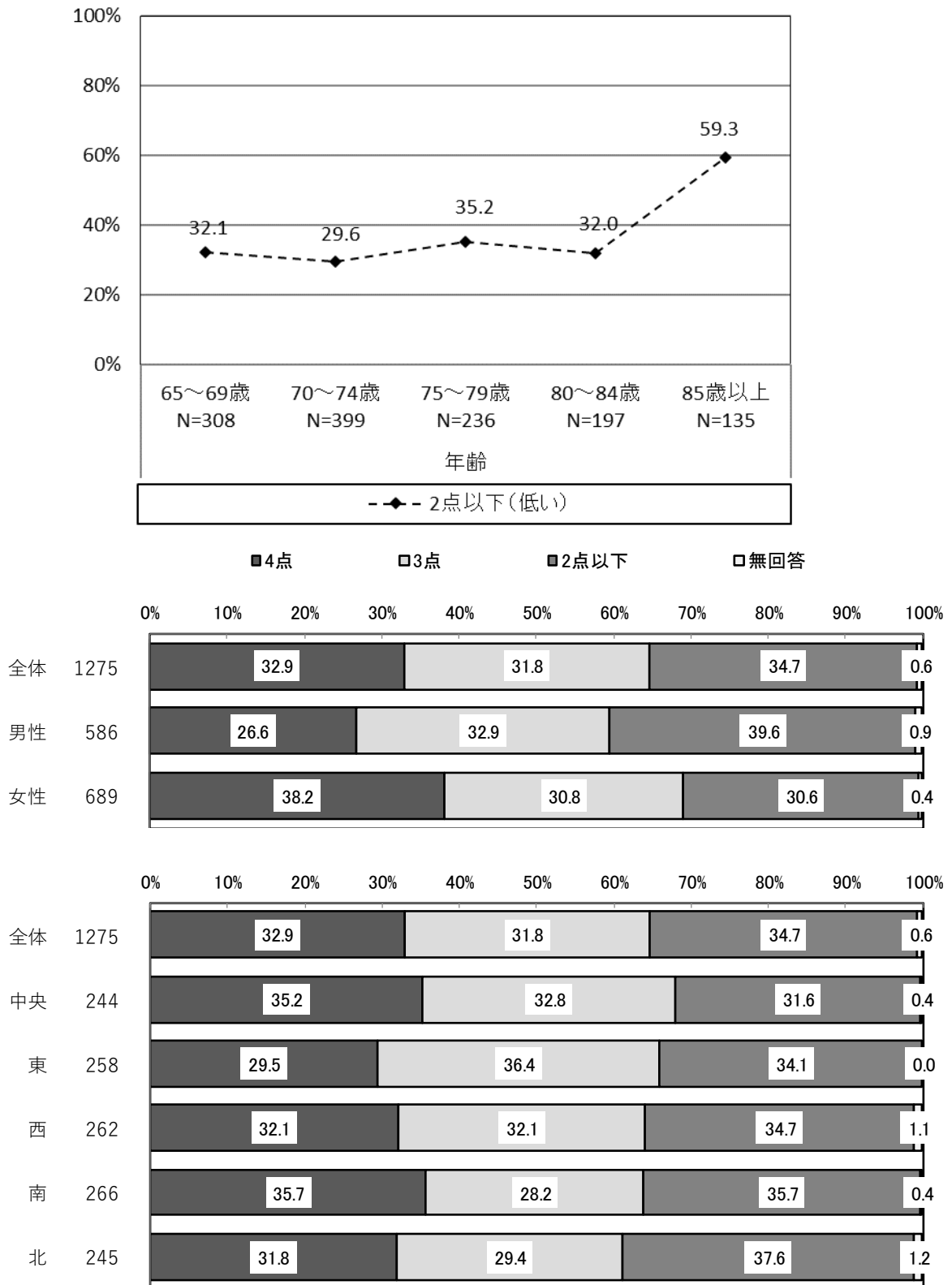


(9) 他者との関わり (一般高齢者)

年齢で見ると、85歳以上では「2点以下(低い)」の割合が6割程度と高い。

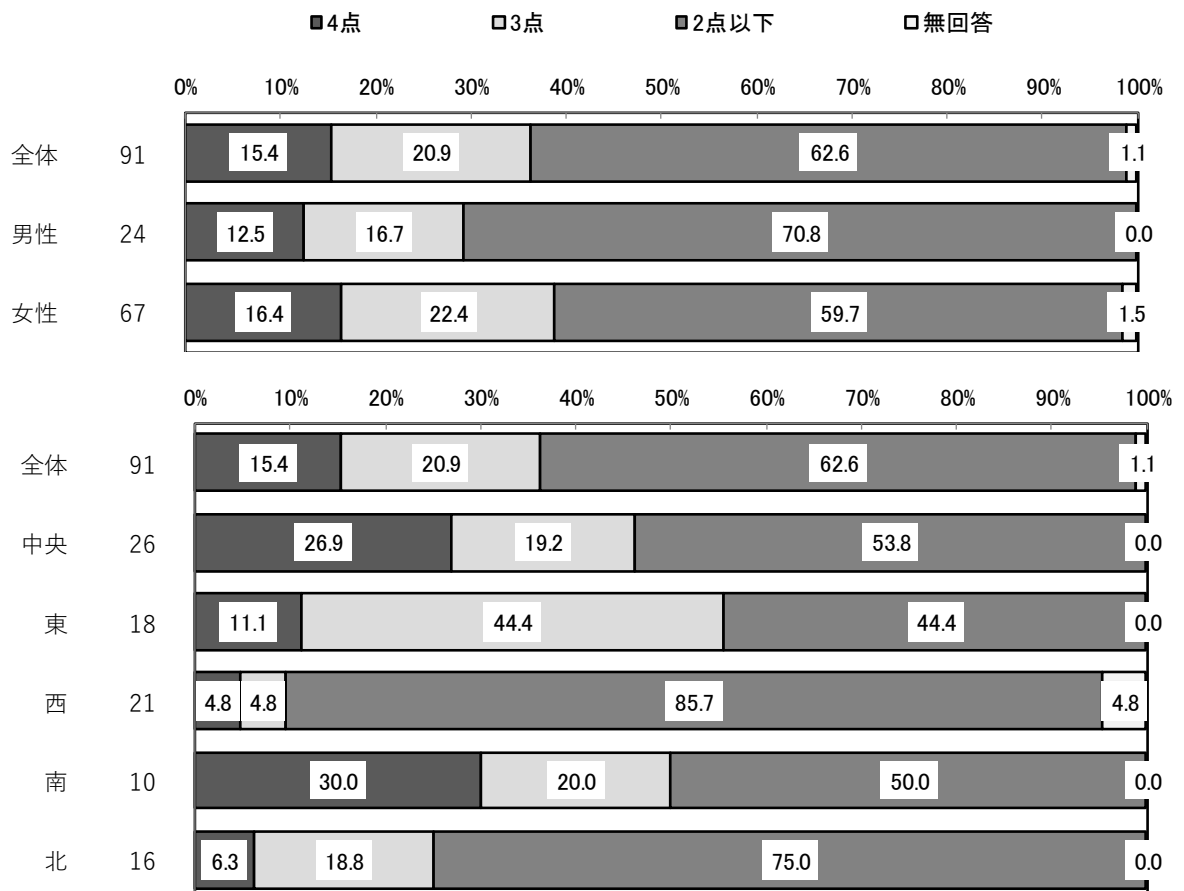
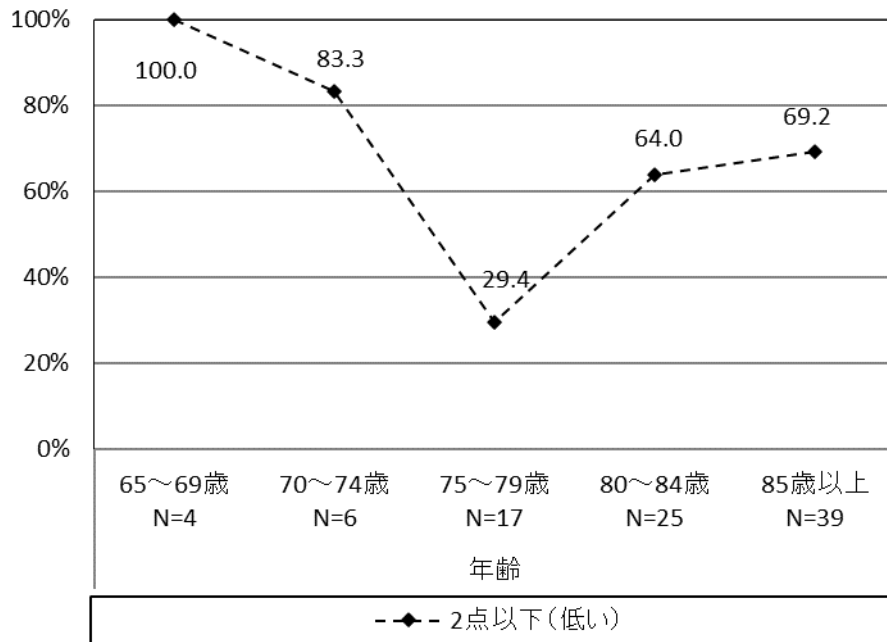
性別で見ると、女性より男性で「2点以下(低い)」の割合が高い。

圏域別で見ると、北圏域では「2点以下(低い)」の割合が高い。



(9) 他者との関わり (要支援認定者)

年齢で見ると、75歳以上では年齢が上がるにつれて「2点以下(低い)」の割合が増加傾向にある。
 性別で見ると、女性より男性で「2点以下(低い)」の割合が高い。
 圏域別で見ると、西圏域では他の圏域と比べて「2点以下(低い)」の割合が高い。

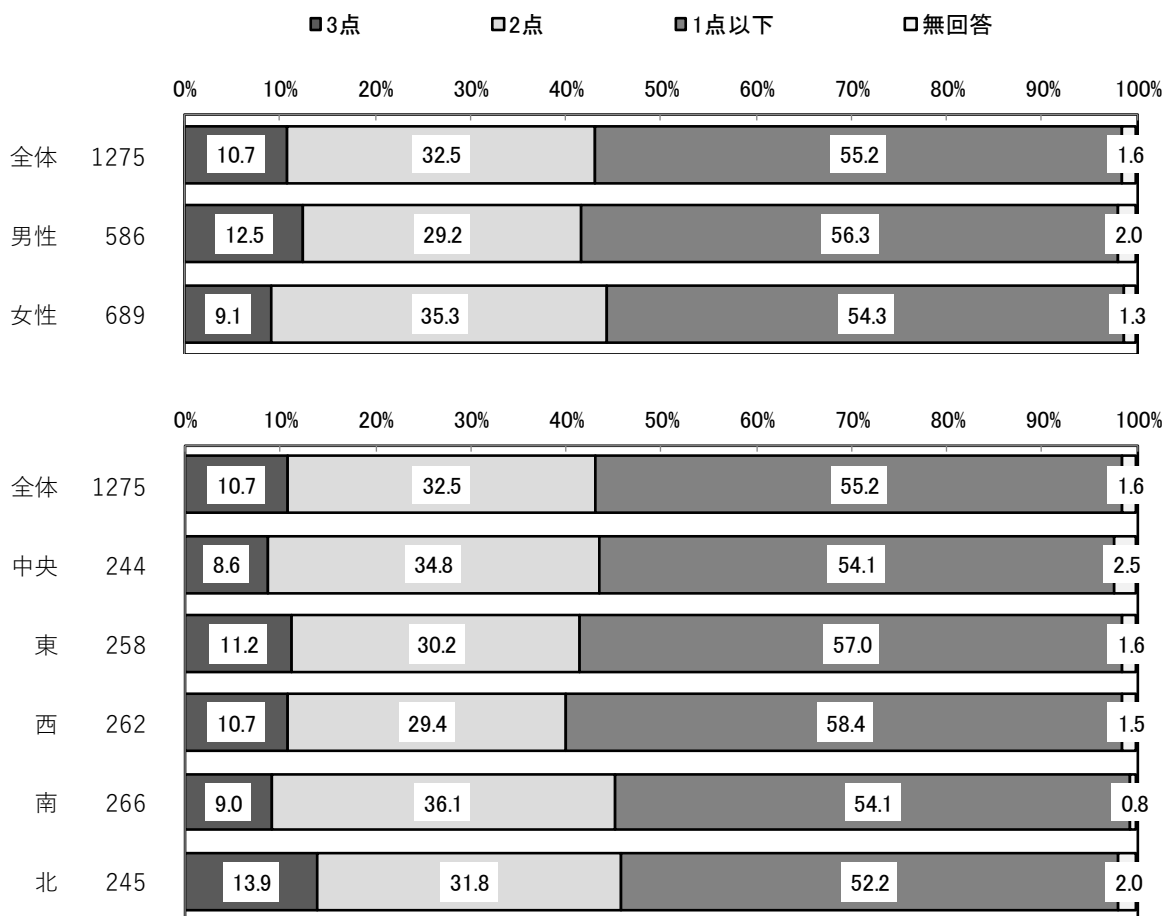
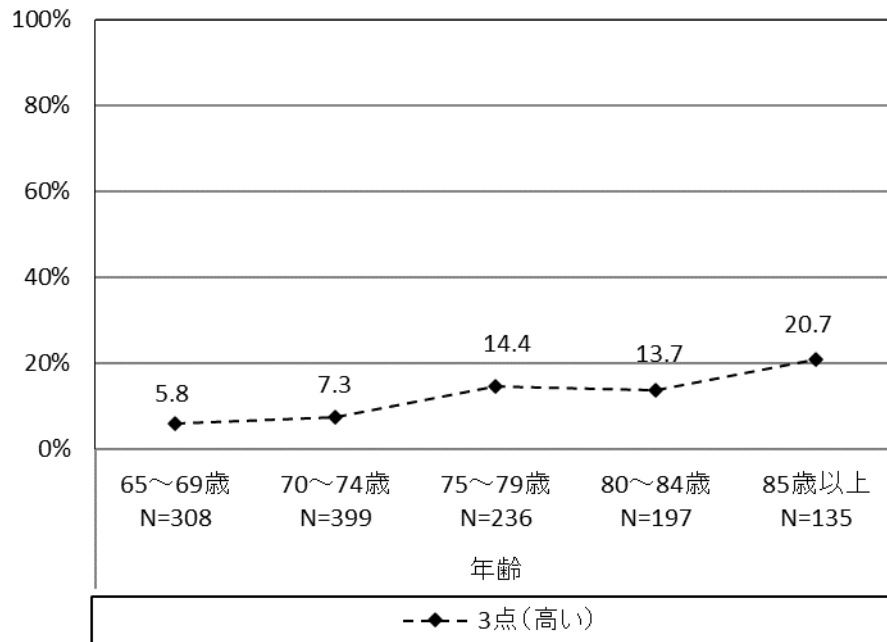


(10) 認知機能の低下（一般高齢者）

年齢でみると、85歳以上では「3点（高い）」の割合が2割を超えている。

性別でみると、女性より男性で「3点（高い）」の割合が高い。

圏域別でみると、北圏域では「3点（高い）」の割合が高い。

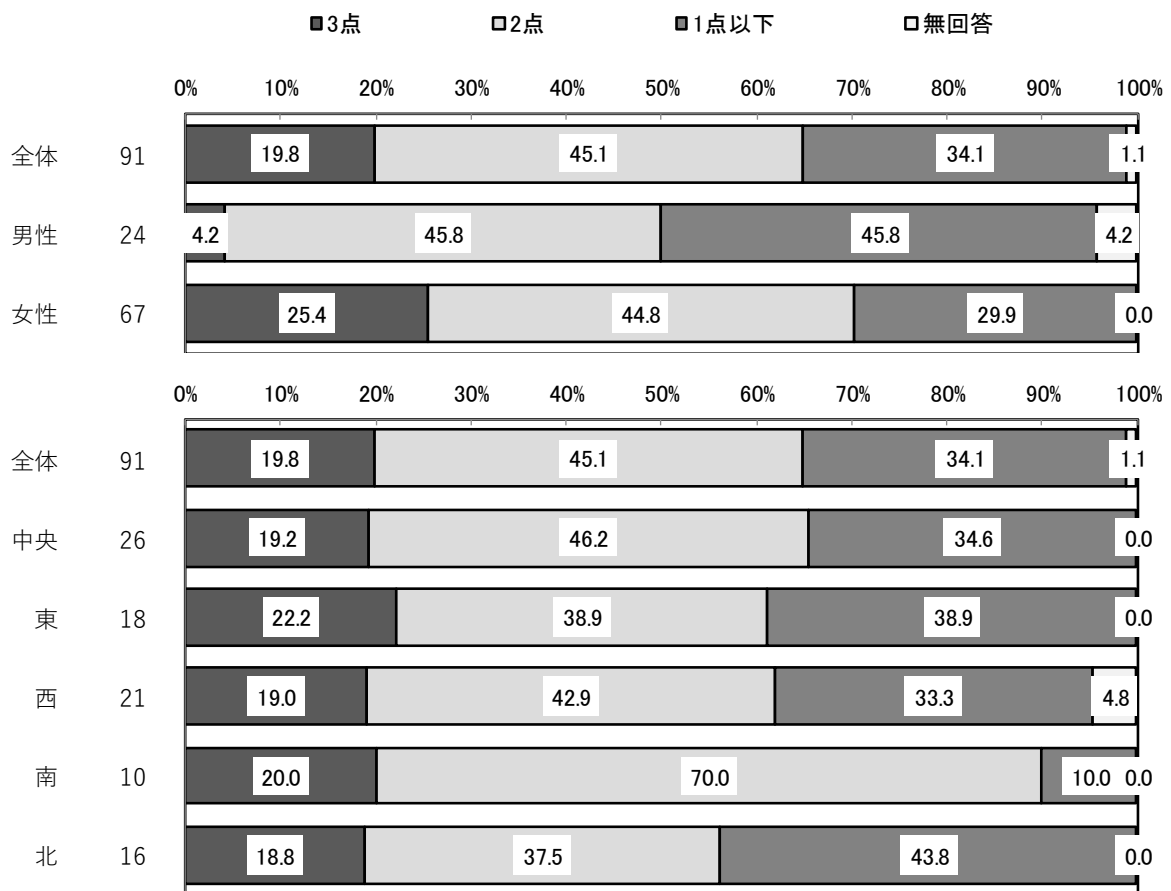
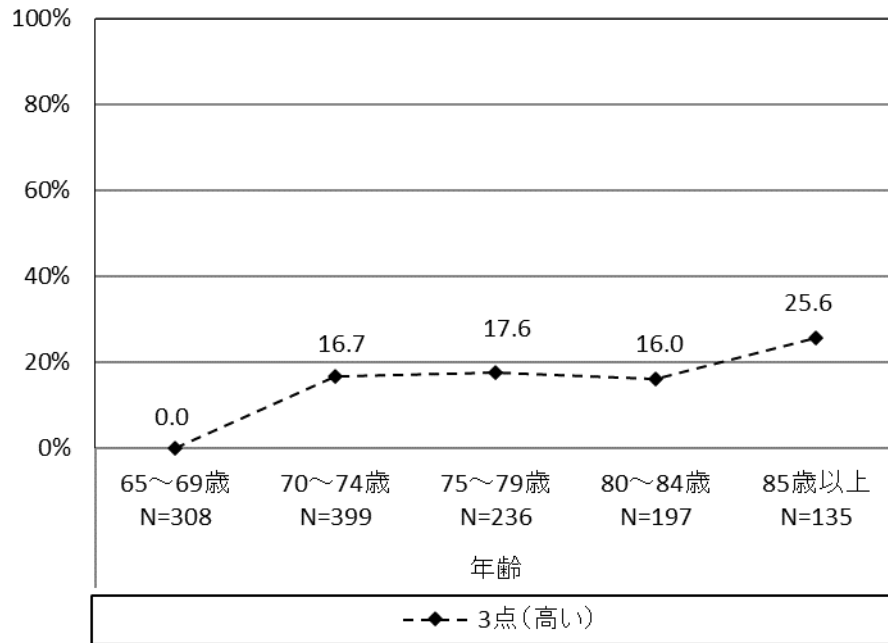


(10) 認知機能の低下（要支援認定者）

年齢で見ると、85歳以上では「3点（高い）」の割合が2割半ばと高い。

性別で見ると、男性より女性で「3点（高い）」の割合が高い。

圏域別で見ると、東圏域では他の圏域と比べて「3点（高い）」の割合が高い。



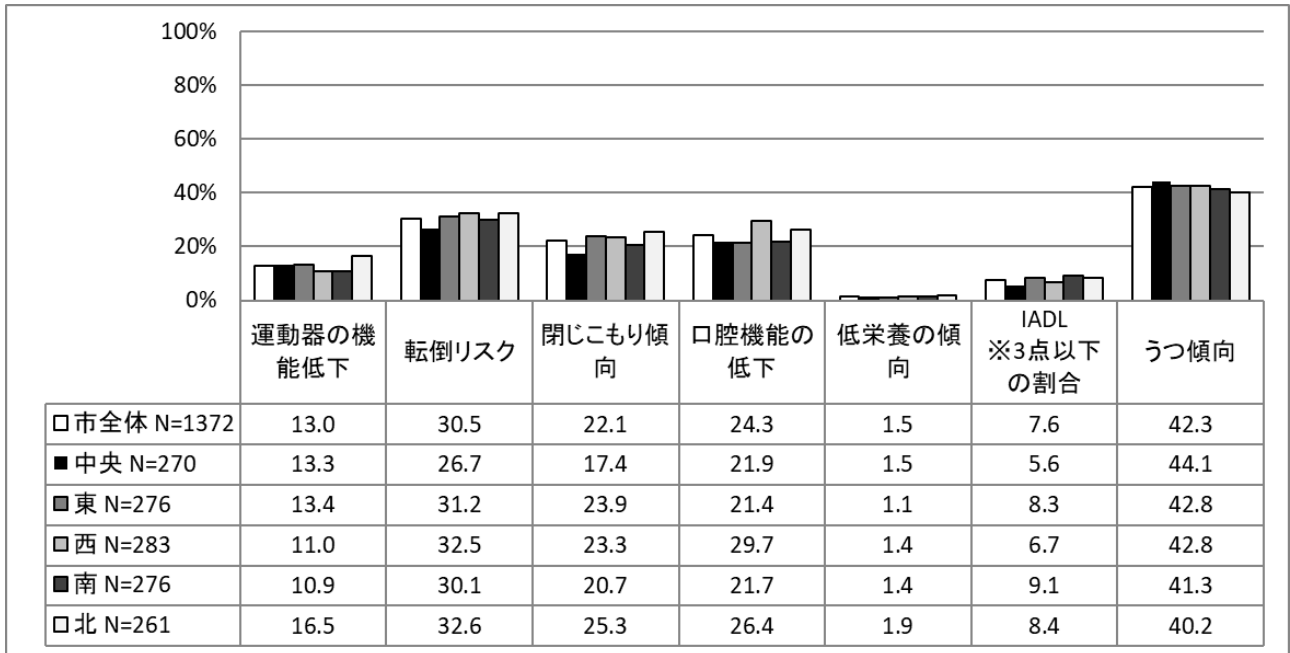
3. 圏域別リスクの比較

(1) 圏域別リスクの比較

【全体】

全体では、各リスク該当者の該当者出現率を圏域別にみると、「うつ傾向」、「転倒リスク」、「口腔機能の低下」の順に高くなっている。

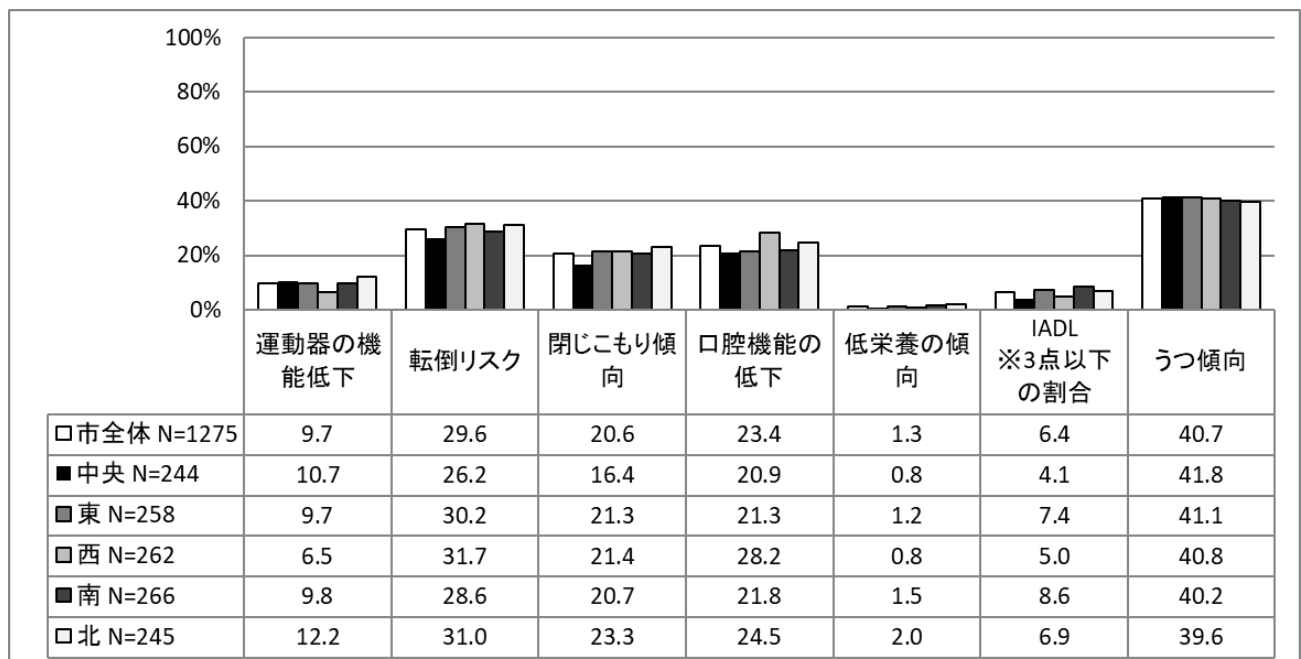
リスク別にみると「うつ傾向」は中央圏域、「転倒リスク」は北圏域、「口腔機能の低下」では西圏域が高くなっている。



【一般高齢者】

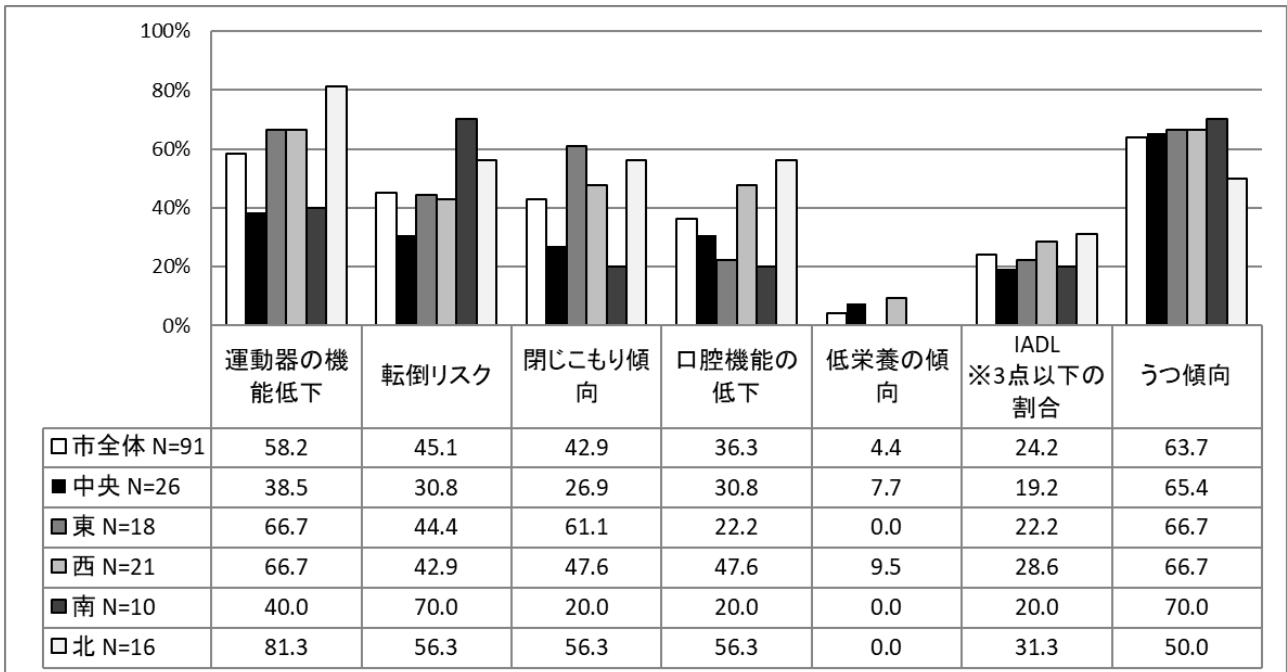
一般高齢者において、各リスク該当者の該当者出現率を圏域別にみると、市全体では「うつ傾向」、「転倒リスク」、「口腔機能の低下」の順に高くなっている。

リスク別にみると、「うつ傾向」では中央圏域、「転倒リスク」「口腔機能の低下」は西圏域が高くなっている。



【要支援認定者】

要支援認定者では、「うつ傾向」、「運動器の機能低下」、「転倒リスク」、の順に高くなっている。
 リスク別にみると、「うつ傾向」「転倒リスク」は南圏域、「運動器の機能低下」は北圏域が高くなっている。

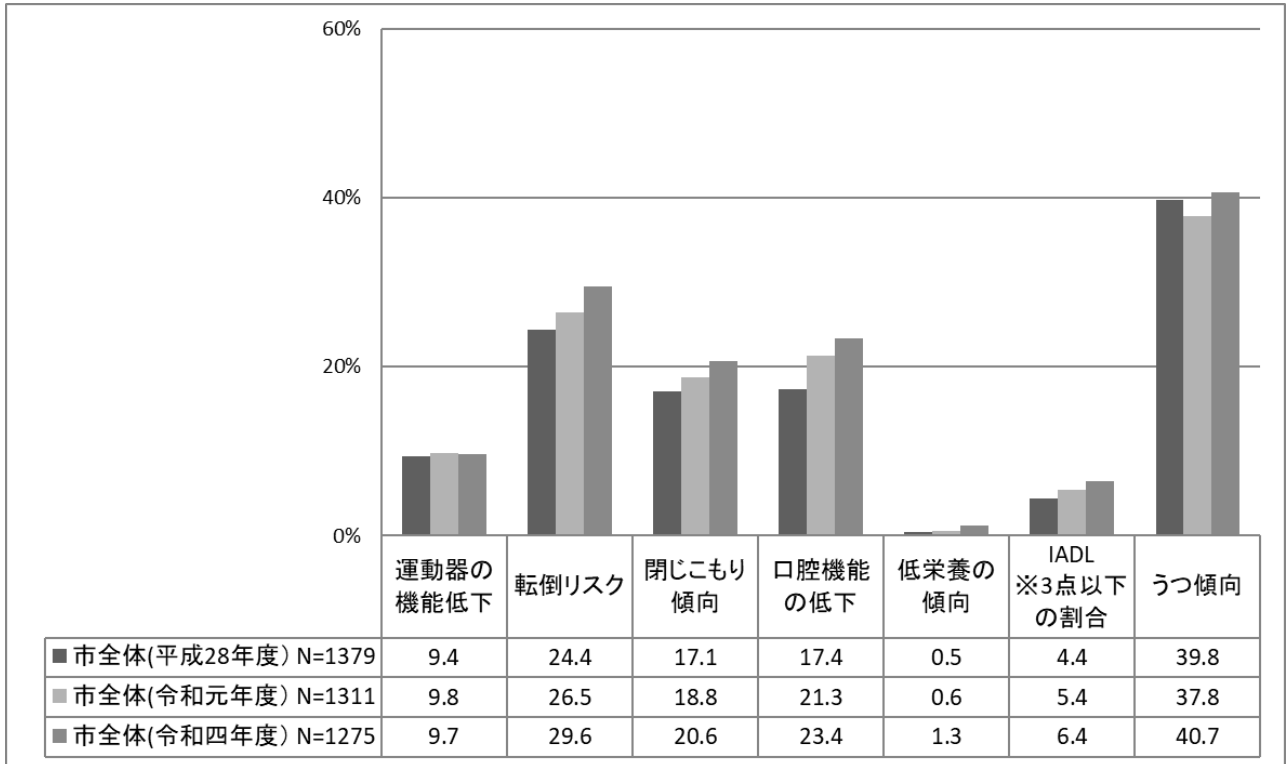


(2) 各リスクの経年比較

①各リスクの経年比較

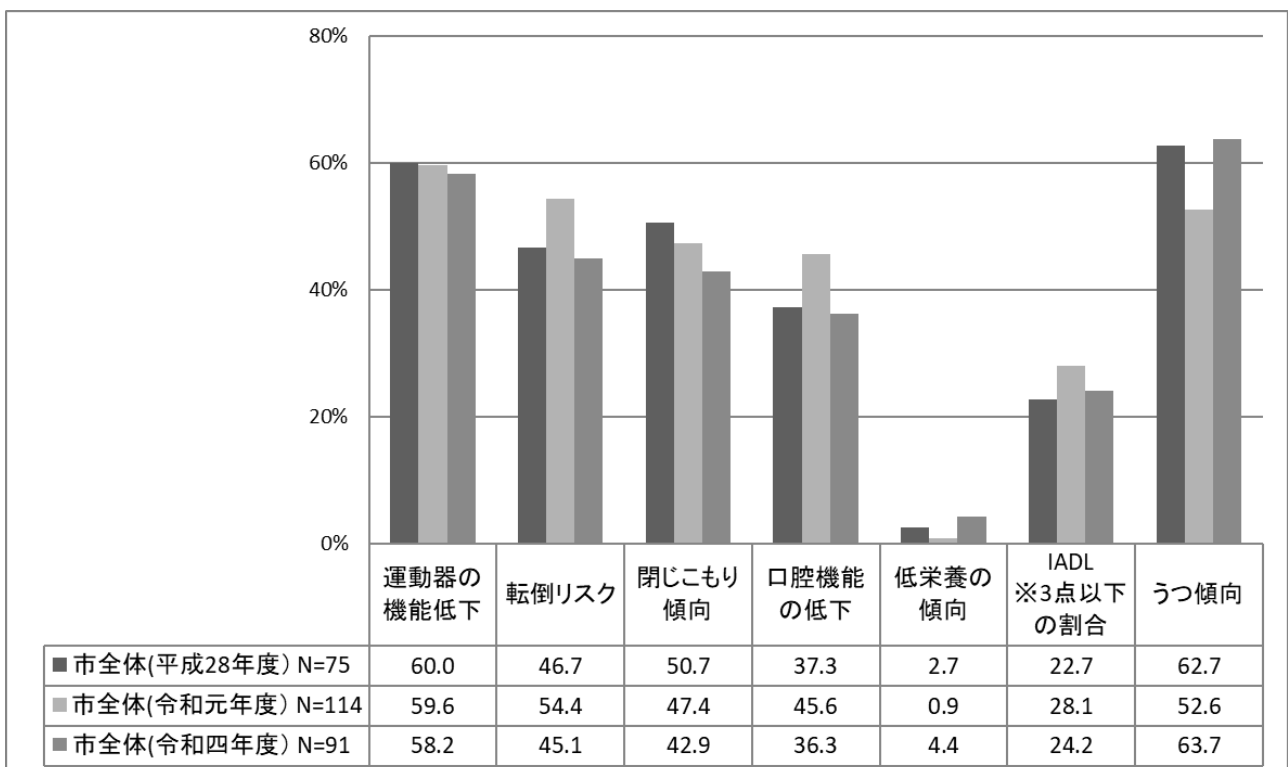
【一般高齢者】

一般高齢者において、各リスク該当者の該当者出現率を経年でみると、「運動器の機能低下」「うつ傾向」以外の項目はこれまでの調査と比較して増加傾向がみられる。



【要支援認定者】

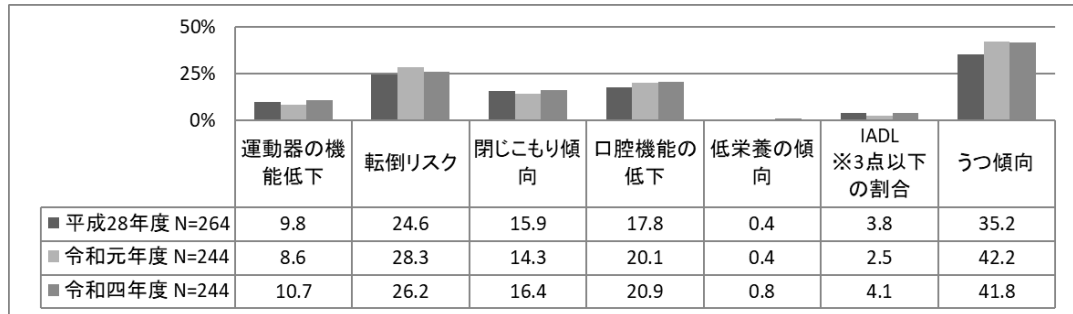
要支援認定者において、各リスク該当者の該当者出現率を経年でみると、「運動器の機能低下」「閉じこもり傾向」はこれまでの調査と比較して減少傾向がある。



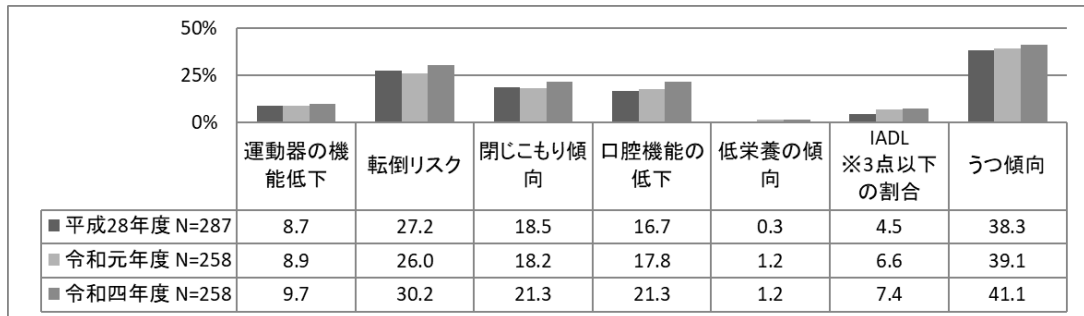
②圏域別各リスクの経年比較

【一般高齢者】

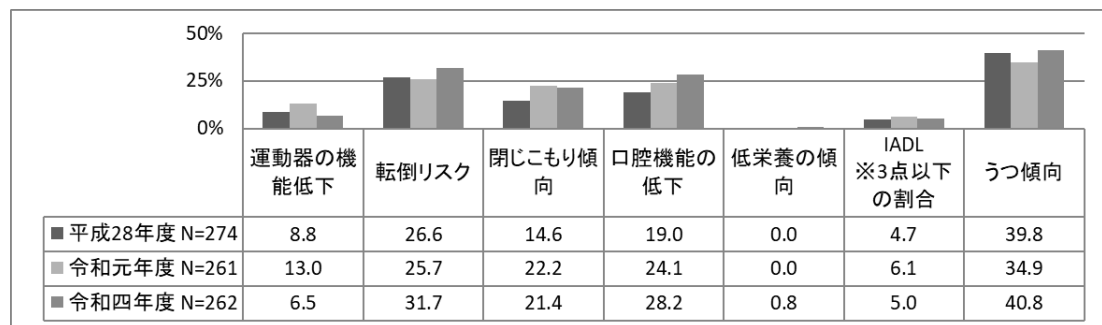
(中央圏域)



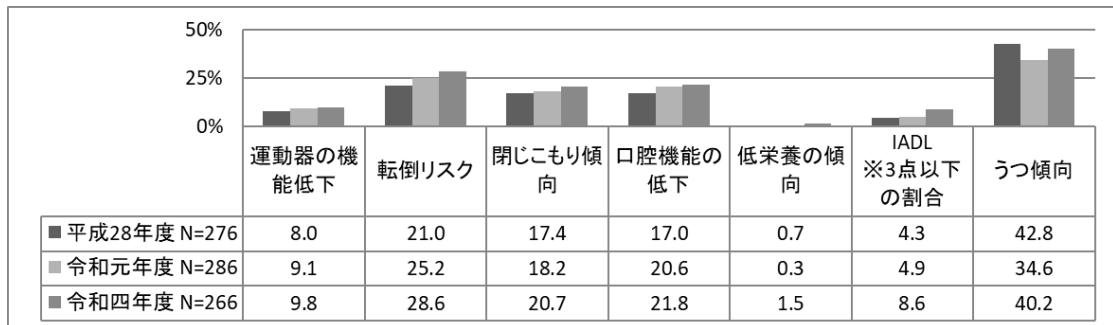
(東圏域)



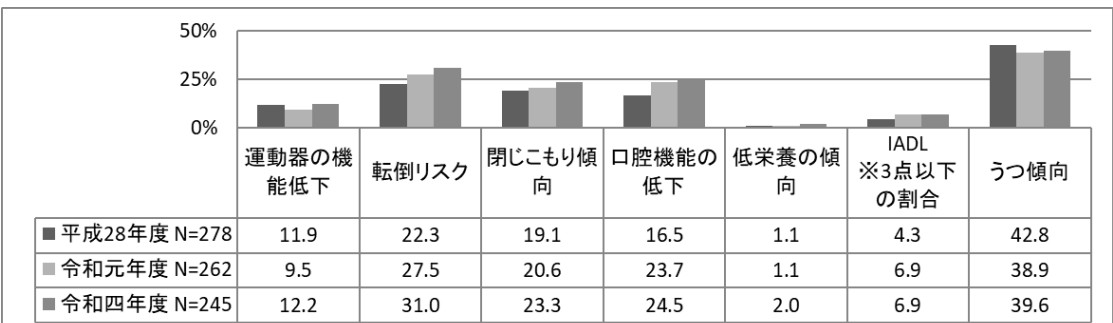
(西圏域)



(南圏域)

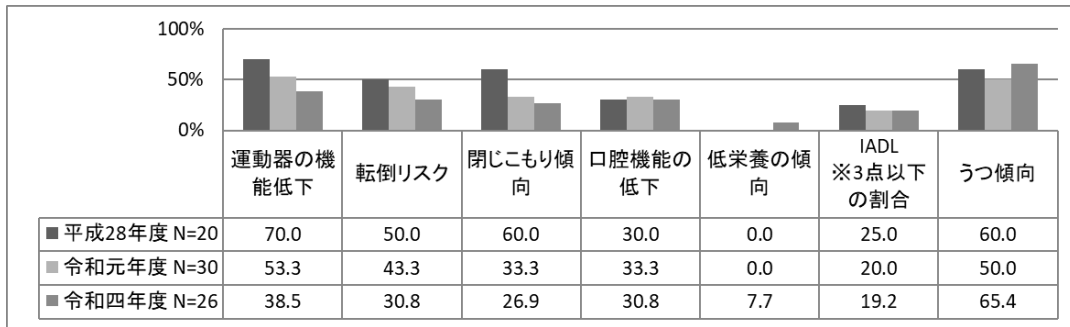


(北圏域)

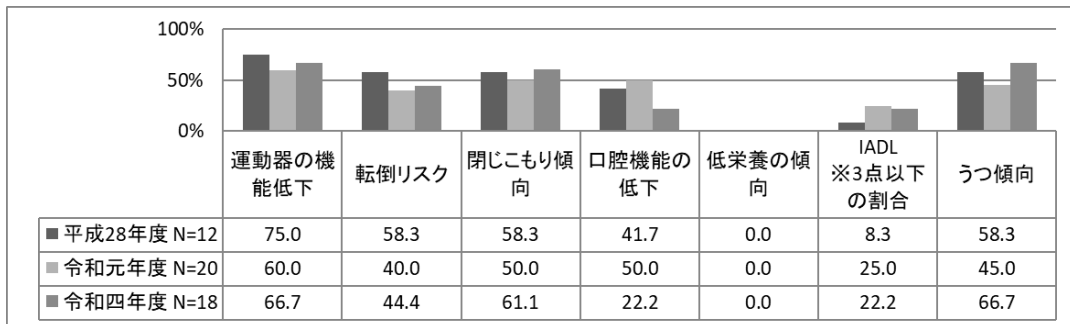


【要支援認定者】

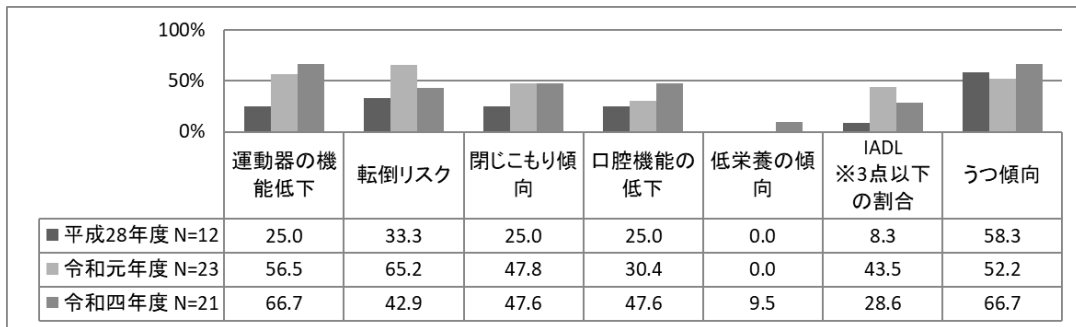
(中央圏域)



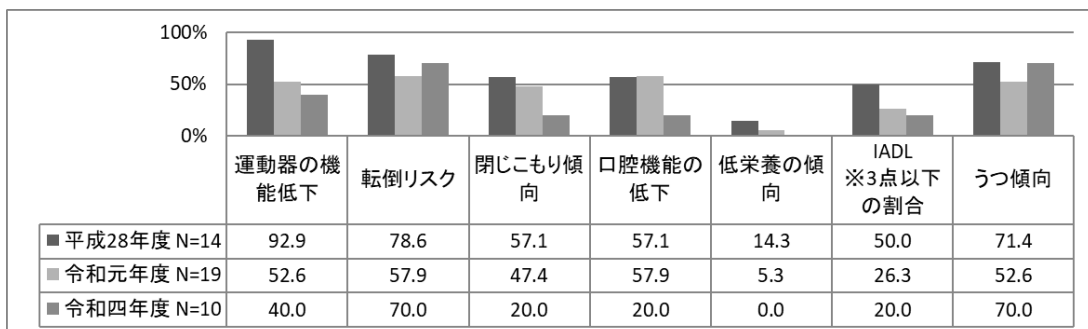
(東圏域)



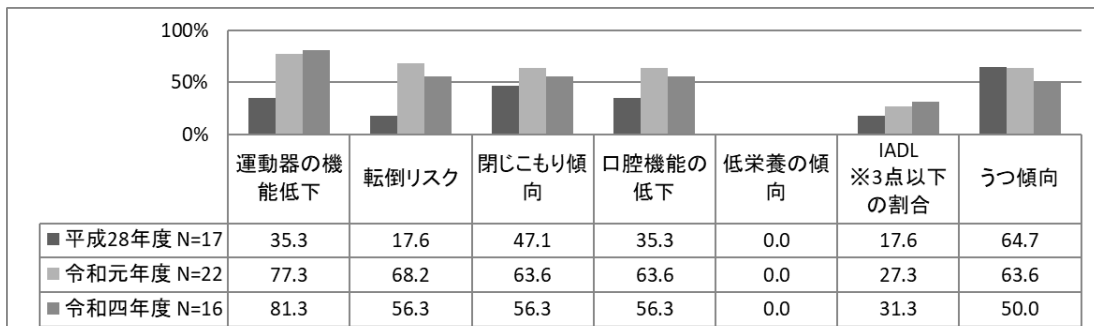
(西圏域)



(南圏域)



(北圏域)

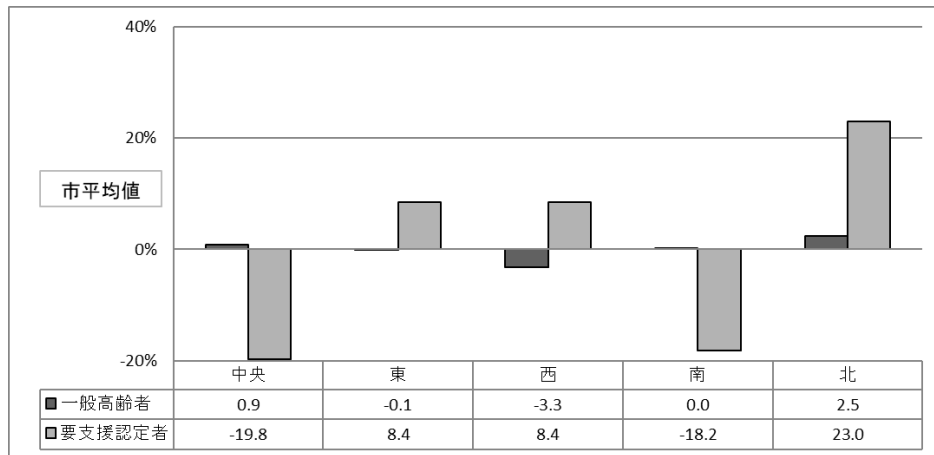


(3) 圏域別各リスクの状況

リスク毎に、それぞれの圏域でのリスク該当者の割合を市平均値と比較している。

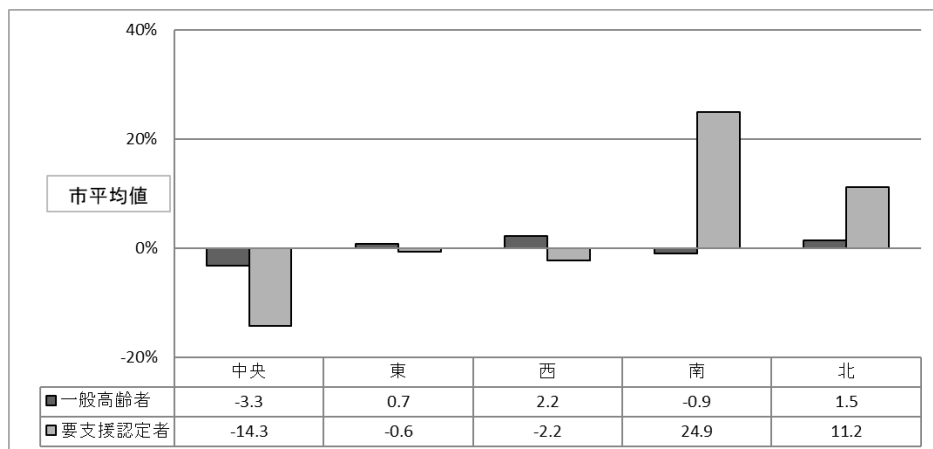
① 運動器の機能低下

一般高齢者では、北圏域、中央圏域が市平均値を上回っている
要支援認定者では、北圏域が突出して高くなっている。



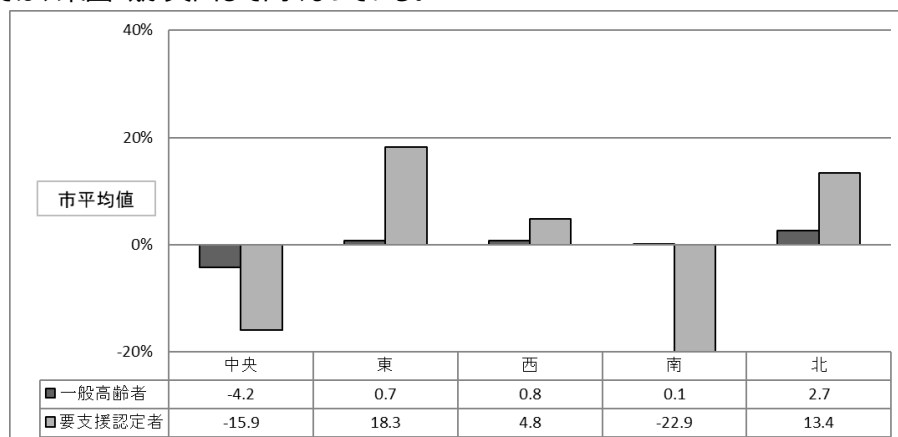
② 転倒リスク

一般高齢者では、西圏域、北圏域、東圏域で市平均値をやや上回っている。
要支援認定者では、南圏域が最も高くなっている。



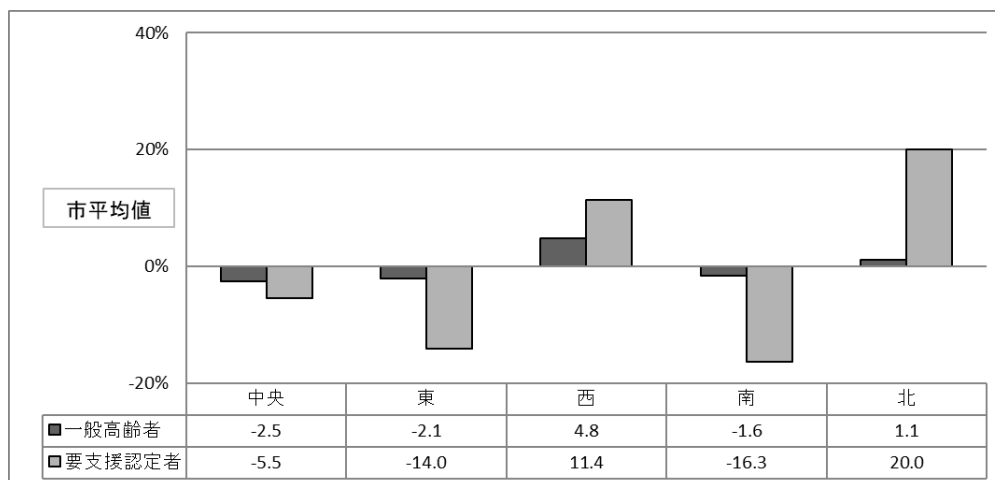
③ 閉じこもり傾向

一般高齢者では、中央圏域以外は市平均値を上回っている。
要支援認定者では、東圏域が突出して高くなっている。



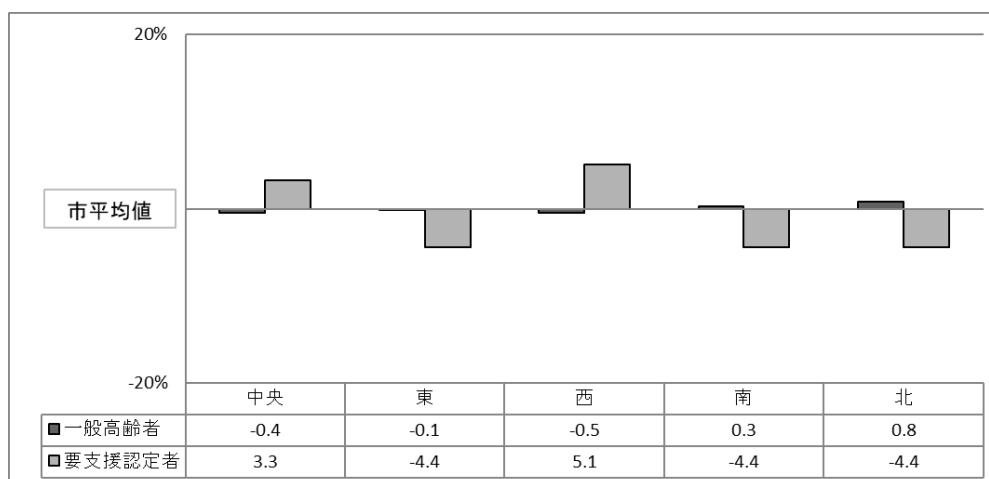
④ 口腔機能の低下

一般高齢者では、西圏域が最も高くなっており、北圏域でも市平均値を上回っている
 要支援認定者では、北圏域が突出して高く、西圏域でも市平均値を上回っている。



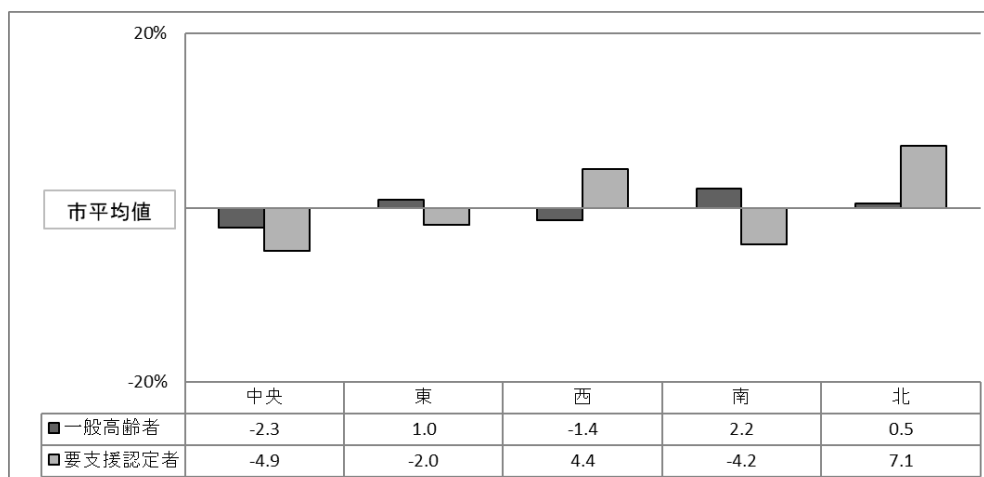
⑤ 低栄養の傾向

一般高齢者では、北圏域と南圏域が市平均値をわずかに上回っている。
 要支援認定者では、西圏域と中央圏域が市平均値を上回っている。



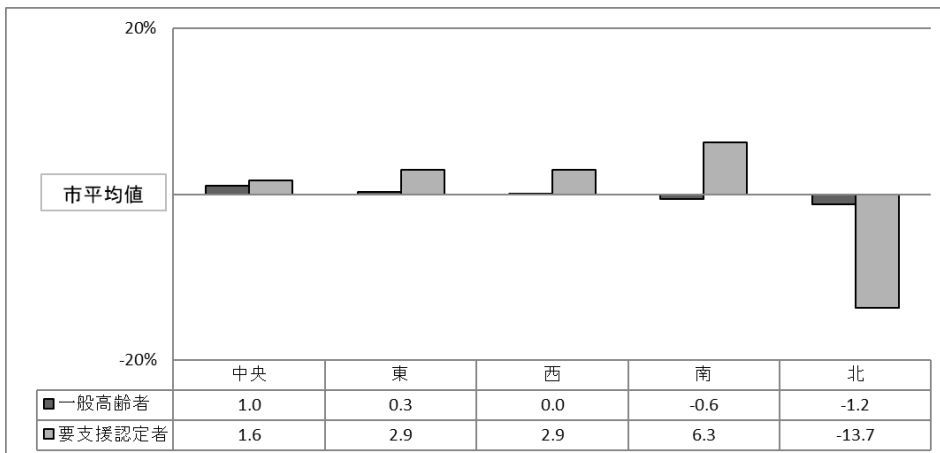
⑥ 手段的日常生活動作（IADL）尺度の低下

一般高齢者では、南圏域、東圏域、北圏域が市平均値を上回っている。
 要支援認定者では、北圏域が突出して高くなってている。



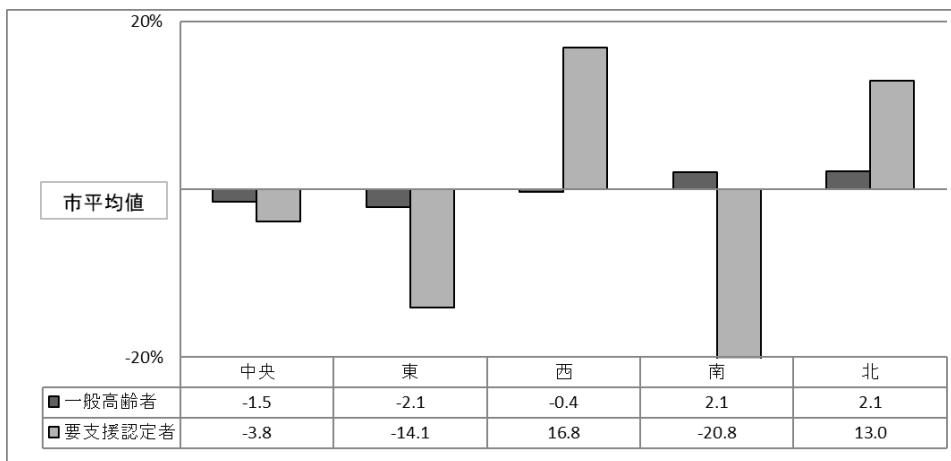
⑦うつ傾向

一般高齢者では、中央圏域が最も高く、東圏域でも市平均値を上回っている。
要支援認定者では、南圏域が最も高くなっている。



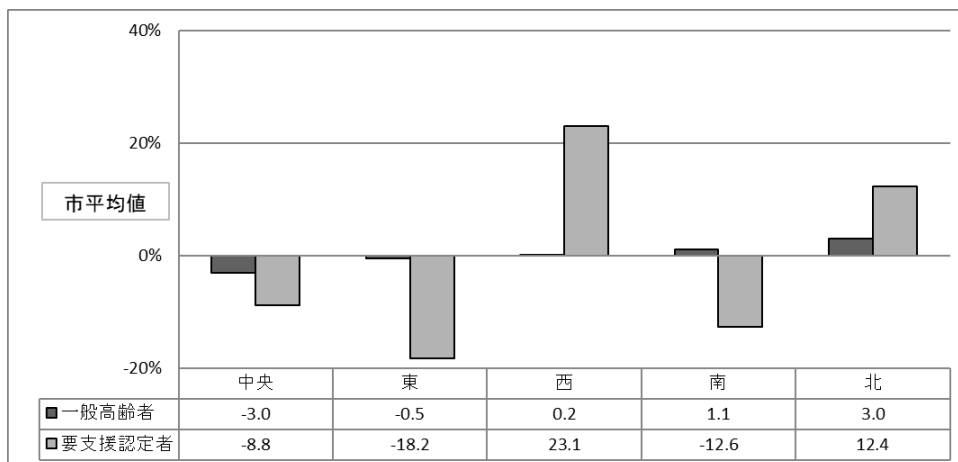
⑧知的能動性の低下

一般高齢者では、北圏域、南圏域で市平均値を上回っている。
要支援認定者では、西圏域で突出して高く、北圏域でも市平均値を上回っている。



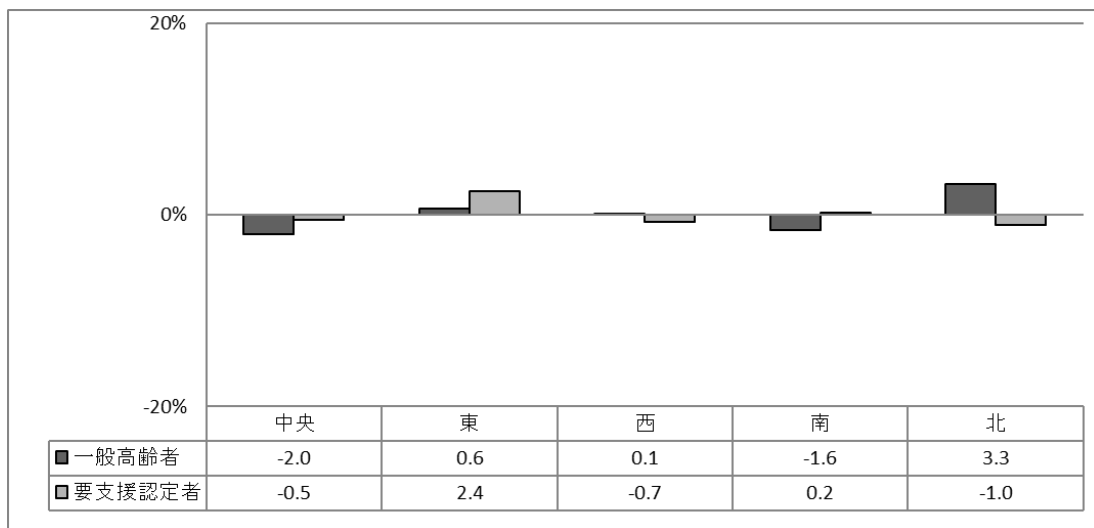
⑨他者との関わりの低下

一般高齢者では、北圏域、南圏域で市平均値を上回っている。
要支援認定者では、西圏域で突出して高い。



⑩ 認知機能の低下

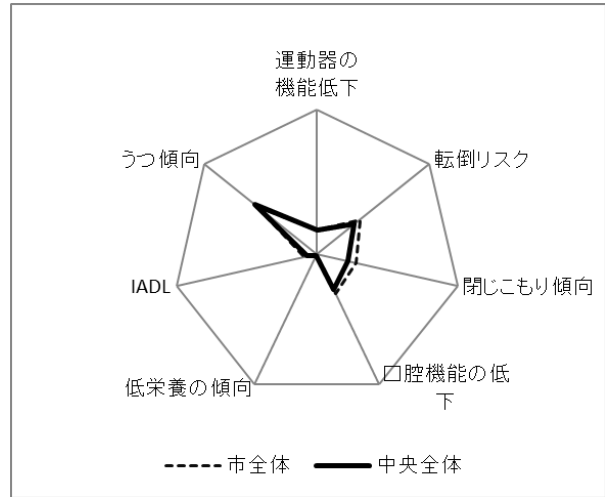
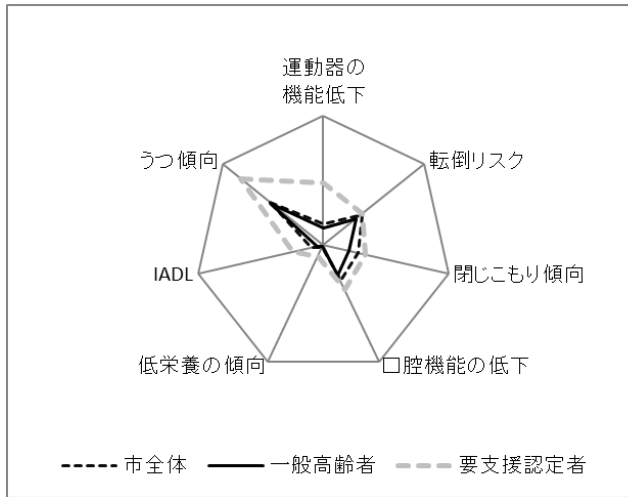
一般高齢者では、北圏域、東圏域、西圏域で市平均値を上回っている。
 要支援認定者では、東圏域で高い。



4. 圏域別リスク該当者割合

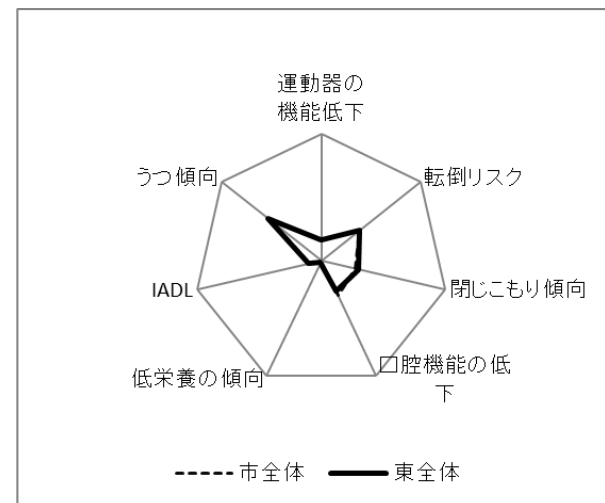
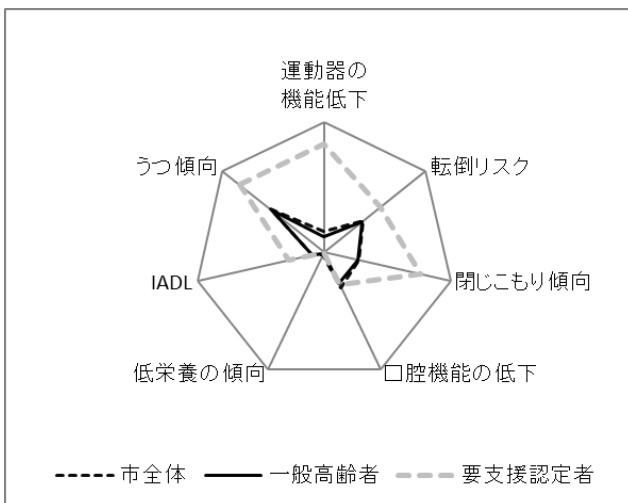
(中央圏域)

一般高齢者は市全体と比べて、中でも「閉じこもり傾向」「転倒リスク」が低くなっている。
 要支援認定者は市全体と比べて、特に「運動器の機能低下」「うつ傾向」「IADL」が高くなっている。
 中央圏域全体は市全体と比べて大きな差は見られない。



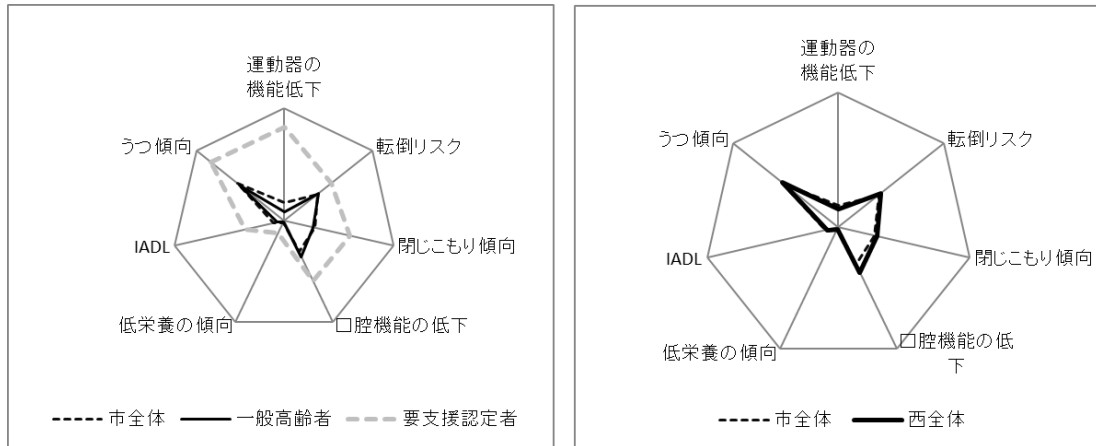
(東圏域)

一般高齢者は市全体と比べて、中でも「運動器の機能低下」「口腔機能の低下」が低くなっている。
 要支援認定者は市全体と比べて、特に「運動器の機能低下」「閉じこもり傾向」「うつ傾向」が高くなっている。
 東圏域全体は市全体と比べて、大きな差は見られない。



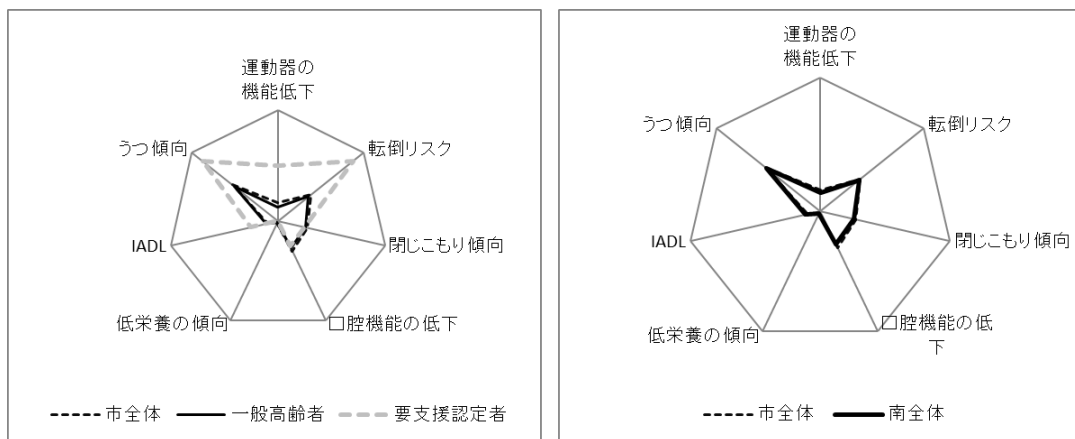
(西圏域)

一般高齢者は市全体と比べて、中でも「運動器の機能低下」が低くなっている。
 要支援認定者は市全体と比べて、特に「運動器の機能低下」「閉じこもり傾向」「うつ傾向」が高くなっている。
 西圏域全体は市全体と比べて大きな差は見られない。



(南圏域)

一般高齢者は市全体と比べて、中でも「運動器の機能低下」が低くなっている。
 要支援認定者は市全体と比べて、特に「転倒リスク」「運動器の機能低下」「うつ傾向」が高くなっている。
 南圏域全体は市全体と比べて大きな差は見られない。



(北圏域)

一般高齢者は市全体と比べて、「うつ傾向」が低くなっている。
 要支援認定者は市全体と比べて「運動器の機能低下」「閉じこもり傾向」「口腔機能の低下」が高くなっている。
 北圏域全体は市全体と比べて大きな差は見られない。

